



特集
震災への

取り組み

空間をデザインする
KONGO
www.kongo-corp.co.jp

- 01** 特集 東日本大震災における津波被害の歴史文化情報資源のレスキュー **国文学研究資料館**
- 02** 特集 東北地方・太平洋沖地震で被災した文化遺産に対する東北芸術工科大学のレスキュー活動 **東北芸術工科大学**
- 03** 図書館 INTERVIEW 震災を乗り越え新図書館の開館 **白河市立図書館**
- 04** 図書館 INTERVIEW 滞在型図書館を目指し、新中央図書館の開館 **高崎市立中央図書館**
- 05** 図書館 INTERVIEW 賑わい創造の再開発拠点づくり **くまもと森都心プラザ**
- 06** 図書館 INTERVIEW 地震への備えと意識 **東北大学大学院 法学研究科 法政実務図書室**
- 07** 図書館 REPORT 東京工業大学の図書館 **東京工業大学 附属図書館**
- 08** 図書館 INTERVIEW 自動化書庫の運用7年目 **金沢大学 自然科学系図書館**
- 09** 図書館 INTERVIEW 文書を通じて過去・今・将来を司る **広島大学文書館**
- 10** 図書館 INTERVIEW 利用者の利便性や、安全・安心の図書館づくり **聖徳大学 川並記念図書館**
- 11** 文化施設 REPORT 正倉院の開封作業—西宝庫における正倉院宝物の点検— **宮内庁正倉院事務所**
- 12** 文化施設 REPORT 市民ボランティアの活動の場 **九州国立博物館**
- 13** 文化施設 INTERVIEW 地域のアイデンティティを発信する **花巻市総合文化財センター**
- 14** 文化施設 INTERVIEW 地域社会に根ざした大学ミュージアム **龍谷ミュージアム**
- 15** 文化施設 REPORT 写実絵画専門美術館の開館 **ホキ美術館**
- 16** 文化施設 INTERVIEW ことばで遊び、学べるミュージアム **株式会社増進会出版社 大岡信ことば館**
- 17** 文化施設 REPORT IPMから見た図書資料の保存 **公益財団法人 文化財虫害研究所**
- 18** 特集 東日本大震災の被害状況と今後の備え

東日本大震災における津波被害の 歴史文化情報資源のレスキュー

国文学研究資料館

寄稿
青木 睦

(国文学研究資料館 研究部 准教授)

激震・大津波、 その復旧活動

地域に伝えられた有形無形の文化財は地域の人々の生きた証である。その証のひとつでも多くの被災資料の救助を通じ、未来への証の継承を支援する目的で、文化庁の働きかけを契機に、国立文化財機構をはじめ幾多の文化財・美術関係団体が4月1日に被災文化財等救援委員会(文化庁文化財等レスキュー)を立ち上げた。

文化庁文化財等レスキューは、阪神・淡路大震災時に、広く民間所在の史料を視野にいれ、文化遺産全体を救助の対象とするということが確認されて「等」が付けられた。今回の震災においては、歴史資料としての公文書・行政文書、近現代資料、自然史資料等も包括して救助対象とすることも共通の認識を得た。

国文学研究資料館(以下、国文研)は、文化庁文化財等レスキュー「人間文化研究機構内チーム国文学研究資料館」(国文研チーム)として活動するに先立ち、被災地の支援と援助のための研究として「大規模災害における資料保存の総合的研究」(西村慎太郎研究代表・国文研)を開始した。

甚大な津波被災の岩手県・宮城県・福島県においては、各県内の研究教育文化行政機関や文化財救援ネットワーク(史料ネット)が博物館・図書館の施設や民間所在の資料の救助活動を開始していた。

また、多くの自治体の公文書が甚大な津波被害で消失したことが明らかになってきた(「役所を襲い、住民の暮らしに欠かせない大切な記録を押し流して」被災自治体岩手県陸前高田市・大槌町・釜石市、宮城県南三陸町、女川町、朝日新聞、110327)。

そこで、庁舎の一部が被災した釜石市に状況を問い合わせたところ、釜石市総務課が被災調査を受け入れ、4月26日・27日に被災状況の調査を実施した(国文研・高橋実・青木睦・西村慎太郎)。釜石市役所は津波被害を受け、行政文書が水損し、甚大な被害にあった(写真1・2)。地下にある文書庫は天井付近まで水没し、瓦礫に埋め尽くされた大量の水損文書が発生し、職員で一部のファイルを開き乾燥させている状況であった。

行政文書は将来にわたり同地域の貴重な歴史資料となることは自明のことである。釜石市長及び総務課に「復旧方策について」※を提案説明し、提案受け入れ後、復旧作業を行うこととなった。この時、応急対応段階として簿冊20冊ほどを吸水とカビの増殖を防ぐために一部乾燥措置を行った。※復旧方策として、文書レスキュー作業工程(救出・搬送・乾燥工程)・資材・人員、復旧スキームを示す。

被災後1ヶ月半を経過した当時の釜石市は、まだライフラインの復旧さえ十分ではなく、乾燥作業などは市の自力で行える状態ではなく、公文書の整理や保存についての専門家の支援が必要であった。海水の影響でカビの増殖はなかったが、気温が上がった場合のカビの繁殖拡大などが心配されたため、その8日後の5月6日より作業を開始した。

ここでの活動に当たり、筆者が窓口になりレスキュー活動を進めた。国文研チームと共に自治体の職員、また公文書の整理や保存についての専門家に参加頂きながら、被災した文書の救助と乾燥作業を実施した。

市役所地下文書庫から近くの旧釜石第一中学校校舎への文書の搬送・移動は、6月10日に完了。総量は段ボール箱換算で1,000箱程、推定20,000点である。地下文書庫の文書リストは7月13日に作成を終えた。

乾燥作業を進めているところだが、全体量が膨大であり、長期保存文書の選定が困難な状況である。乾燥場所は、電源及び水が使用できない環境であった。脱塩のための水洗は、カビの増殖をまねく危険性が高く、水洗して適正な乾燥場所が確保できないので実施しないことにした。

完全水損でカビが繁殖した文書(写真3)は、圧縮袋(座布団用)で空気を抜き(写真4)、暗所に保管してカビの進行を防いだ(バインダー編綴文書はバインダーと本紙を分離)。カビ繁殖の文書は、津波後すぐにカビが繁殖したものであり、乾燥段階でのカビの増殖はあまり見られなかった。

部分水損(一部が乾燥)文書は、キッチンペーパーで新聞紙を包んで吸水紙(キッチンペーパー新聞サンド)を間紙にし、水分を吸着する作業を繰り返しながら、段階的に乾燥させた。平置きの場合、下側の乾燥が遅くなるため、縦置きにした。(写真5)

その際、適宜、砂やカビを刷毛で除去したが、完全乾燥後に泥・砂がさらさらととりやすくなるため、この段階では簡単に実施した。

現地作業は5月6日～7月13日の間に行った。作業は国文研並びに関係機関の職員とボランティア、雇用支援として釜石市民を雇用(国文研チーム雇用1ヶ月間)して進めた。

完全乾燥までおよそ1年、3年間はその後の経過を観察する必要がある。文書の必要度や状況により、洗浄・乾燥、別の媒体への代替化などを検討することとしている。一連の運営管理や作業指示は国文研の現地担当者が管理し、作業工程を見直しつつ計画的に進行できるよう努めた。

7月2・3日に「東日本大震災津波被害資料の復旧プロジェクト報告会」を開催した。復旧プロジェクトは、東日本大震災により被災した文化財や公文書等の救助復旧の促進を図るため、参加者の方々と共に被災公文書等の救助・復旧活動に係る知識と技術を共有することを目的とした。作業報告と実地作業、被災地の状況の巡見を含めた企画である。交通機関が整備されていないため、チャーターバス移動とした。釜石市や大槌町、山田町の被災状況を多くの方々に知っていただき、今後の活動の一助になればと考えた。

現在、復旧作業第1期(5月6日～7月13日)における作業の目標を達成し、復旧作業第2期(7月14日～10月31日)を終えた。この間は、乾燥を促進するために現状を維持しつつ継続乾燥を行った。8月24日～30日に乾燥状態を確認する作業を実施した。10月14日～20日に、乾燥状態の観察のための水分計での計測、塩分・汚染物質の測定等を実施しつつ、クリーニング作業を行い、完全乾燥を促進させた(写真6)。現用文書の内、図面類のクリーニングも優先的に行い、ファイルに綴じられた図面

類についても、泥が付着して乾いている箇所を小クワシ、スポンジ、マイクロクロス、刷毛の順に用いてクリーニングを実施した。

今後、2011年11月～2012年3月の期間に文書の再生作業(クリーニング・ファイル表紙交換・リストとの照合・元配架順に並び替えた配置換え)を実施する予定である。2012年4月から文書の活用が可能な状態とすることを目指している。

「人間文化研究機構内国文学研究資料館チームの活動計画」工程表をまとめたので、参照願いたい。

この活動の意義

公文書は行政上の基礎資料であるとともに地域・住民の記録であり、歴史資料となるものである。但し、現用文書は個人情報など公開できない情報が多く、職員以外は扱えない。自治体と支援者との信頼を築くことの証として、本活動では守秘義務に関する誓約書を取り交わした。

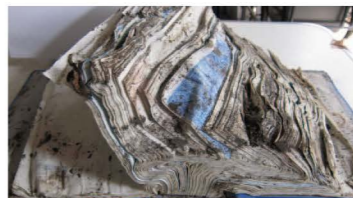
今回のように、被災自治体とともに外部の支援者が行政文書の救助・復旧に携わる機会を得られたことの意義は大きいと思う。



釜石市役所の地下文書庫の瓦礫が堆積している状況



文書庫奥の集密手動式の棚のファイル類の被災(下段に赤カビが繁殖)



瓦礫の中から救出した、ぐにゃりと変形したチューブファイル文書



応急対応段階での圧縮袋への簿冊の封入



変形を補整しながら整形し、吸水紙(キッチンペーパー新聞サンド)を挿入後、整形して縦置きにして乾燥している状態



120㎡ほどの教室での乾燥状況(この他に11教室で同様に乾燥を継続中)

人間文化研究機構内国文学研究資料館チームの活動計画

釜石市大津波被災文書の復旧作業を中心に



東北地方・太平洋沖地震で被災した文化遺産に対する東北芸術工科大学のレスキュー活動

東北芸術工科大学

寄稿
米村 祥央
 (東北芸術工科大学 文化財保存修復研究センター)

3.11の大震災では多くの尊い命が失われました。御冥福をお祈するとともに、未だ様々な形で不自由を強いられている方々に一日でも早く現状が改善されることを心よりお祈り申し上げます。この度の震災では官民合わせた多くの復興活動が実施されています。我々文化財保存に関わる人間ができる事は何か。被害のあまりの甚大さに思考が停止しそうになったこともありましたが、4月になって実際の活動を開始することができるようになりました。本稿では、これまでに東北芸術工科大学が山形の文化遺産防災ネットワークと共に続けている文化遺産のレスキュー活動について報告させていただきます。

東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター(以下、センター)では、かねてから文化財の防災に関する活動の準備をしてきました。その一つが山形県文化遺産防災ネットワーク(以下、山形ネット)の立ち上げに向けた活動で、同ネットワークは2008年に発足しました。当時その3年後にこのような大きな災害が発生するとは誰も想像していなかったはずですが、文化遺産保存分野で防災の意識がいつそう高まったのは1995年の阪神淡路大震災が一つのきっかけです。その後、福井豪雨

での洪水、2004年の新潟中越地震など、災害ごとに文化遺産レスキューの活動が進み、担当者同士の情報交換、学会での文化遺産防災を主題としたシンポジウムの開催など、問題意識も高まりつつあるところだったと思われます。

今回の震災の特徴は津波による罹災と、放射能汚染であるといえます。文化遺産に限れば、放射能に汚染されたものに関しては、現段階で手を付けることができず、被災の状態も全く明らかになっていません。まずは、「救えるものから救う」考え方で文化遺産レスキューが実施されています。

発生から受け入れの準備まで

震災直後、相当量の文化遺産が被災していることを想定し、センタースタッフ間で活動が共有できるよう検討しました。そして文化庁や学会

等に向けて、当センターが被災文化遺産を受け入れる準備があること、専門家の存在、大型真空凍結乾燥機等を駆使した作業が可能である旨を明記した声明文を作成し通達しました。また、山形県内の近隣にある企業に冷凍施設の一角を使用させていただけるよう協力体制を構築しました。

被災資料の受け入れ

山形ネットとの共同作業により、4月25日に宮城県立農業高校から被災図書資料約1000点を搬入しました。同高校は、宮城県内で最も歴史のある学校の一つであるため、江戸時代や明治時代の書籍も多数被災していました。その後、陸前高田市の自然史系博物館から約4000点の図書資料や研究資料を搬入しています。また、5月には文化庁の要請により、美術作品の現地応急処置のため専門のスタッフを派遣し、その後作

品を受け入れています。

図書資料を中心とした応急処置作業の実際

今回実施している、図書資料の応急処置作業の工程は大きく分けて、乾燥、クリーニングです。まず、搬入した際に、状態により資料を仕分けました(写真1)。すでに乾燥が進んでいる資料については、直ちに扇風機で送風を続け、乾燥させました。

一方、搬入時点でも多くの水分を含み、乾燥作業中にカビの発生や腐敗が進行する恐れのある資料については、冷凍保存をしました。これらの資料は順番に真空凍結乾燥処理を実施しています。真空凍結乾燥法は低温で、圧力を下げると水から水蒸気へと昇華する水の物性を利用する方法で、液体の状態を経ないためカビの進行や腐敗を妨げて乾燥させることが可能です。試料によって差はありますが1cm程度の

厚みの和書であれば、3~4日で乾燥処理が終了しています(写真2)。

乾燥が終了した資料はクリーニングを実施しています。今回の応急処置の範囲でできる作業は物理的なドライクリーニングで、刷毛、筆、竹べら等を使用して一冊ずつ付着した泥を除去しています。また、付着したページ同士をはがして展開できるようにする(空気に触れさせる目的もあります)作業も同時に実施しています。このクリーニング作業が最も時間を要し、現在は学生、山形ネットの方々が週に2回、夕方から集まって実施しています。また、クリーニング作業は本学だけでなく山形大学、米沢短期大学、東北公益文化大学といった山形県内の大学に協力していただいています(写真3)。

問題点と今後について

ある種類の紙を表紙として使用されている本の表紙同士が完全に固

着してしまい、分けることができない現象が生じています。このような場合は、無理に剥がそうとせず、そのままの状態を作業を終了させています。また、明治から昭和初期の古い地方新聞の資料については、元来保存に適していない新聞用紙であり、さらに酸性紙が使用されている可能性も高いため、上記と同様の方法で作業が可能であるかはわかりません。現在、実験をしながら、方法を検討しています。

お預かりしている資料の数が膨大であるため、この作業自体、数年かかることが予測されます。息の長い活動を可能にするため、無理せず、確実に進めることが重要です。被災地によっては、未だに文化遺産の被災状況を把握できない場所もありますし、現地の簡易倉庫での一時保管しかできていない資料も膨大にあり、更なる受け入れも検討しておかなければなりません。資料を返却で

きる状態になるまでに被災地が復興するには数年を要するでしょう。その間、コンタクトをつづけつつ、専門を生かした復興活動として、被災地のために微力ながら今後も作業を進めていきたいと考えております。

最後に、甚大な被害を受けた震災ではありませんでしたが、整備された収蔵庫内の被害は少なく、耐震の工夫がされた美術作品も無事であったものが多かったと報告されています。低予算で可能な対策事例も紹介されるようになっていきます。またいつ、どこで大きな災害が起こるかわかりませんので、少しずつでも文化遺産防災の対策を施していくことが重要であると考えられます。



(写真1) 搬入後の仕分け作業



(写真2) 資料を真空凍結乾燥機へ



(写真3) クリーニング作業

【木本】新図書館が開館しました。開館に至るまでの経緯についてお話を伺います。

【佐川】はじめに平成6年にJR白河駅前用地を取得後、市有地の利活用について検討され、平成17年に駅前用地利用の基本計画及び、図書館の基本構想・計画が策定されました。中心市街地活性化法の指定を受け、街づくり及び人づくりの拠点として、複合文化施設として計画が進みました。白河市は旧白河市、西白河郡表郷村、大信村、東村の合併により、新市制が発足され人口6万人の都市になりました。図書館としては4館が統合することになり、中央館として機能が盛り込まれ、また、

震災を乗り越え新図書館の開館

白河市立図書館



話し手
佐川 幸雄(白河市立図書館 館長)
田中 信哉(白河市立図書館 副館長)

聞き手
木本 拓郎
(金剛株式会社企画チーム チームリーダー)

産業支援センターや集会機能が付加した複合施設になりました。

平成18年に設計者を公募型プロポーザル競技により実施し、第一工房(東京都)が選定されました。

【木本】図書館計画についてのポイントはどこでしたか。

【佐川・田中】ポイントの1つ目が蔵書数です。旧館では施設の老朽化をはじめ、収蔵スペースの狭隘化が課題になっていました。旧施設では11万冊でしたが、人口規模が同じ公共図書館や近隣の図書館を参考に、25万冊の倍の蔵書数を設けました。

2つ目に閲覧席です。旧館では閱

覧席が10席しかなく、利用者がゆったりとしたスペースで閲覧ができませんでした。新館では大幅に増やし250席です。

3つ目に雑誌の充実です。これまで30誌程度でしたが、161誌に増やしました。産業支援センターも隣接されていますのでビジネス関連雑誌を含め、様々な観点で選書しています。

4つ目は、設計者との対話です。設計者は建築・設備のプロですが、私どもは運営面での意見を出して反映していきました。運営としては基本的には利用者が借りやすく、スタッフが返しやすく、図書を書架の中でアピールできるようにしたいと強い思いを持っていました。書架や家具類のデザインの重要性もその時気づいた点でした。

【木本】運営面ではいかがでしょうか。

【田中】できるだけサービスの敷居を下げたいと思いました。貸出利用では2週間で5冊まででしたが、3週

間で読めるだけ借りられるようにしました。

また、これまで業務は手作業でしたが、ICタグや自動貸出機、ウェブ予約などの最新のシステムを導入しました。サービスに関して、しっかりと信頼性があがったのではないかと考えています。分館からも検索ができ、貸出も迅速に行えます。これまでにないサービスの向上が、利用者の方々より高い評価をいただいております。

【木本】開館してからの効果はいかがでしょうか。

【佐川】図書館には多くの方々に来館いただき、概ね良い評判をいただきます。登録状況として、市内をはじめ県南一円、近接する県外からの利用者もいらっしゃいます。近隣のお店の方からも「お客様が増え、賑わいが戻ってきた」との声もいただきました。当初の狙いであった地域活性化にも効果がでてきていると確信し



白河市立図書館／概要

- 所在地／福島県白河市道場小路96-5
- TEL／0248-23-3250
- 開館時間／平日(火～金)10時00分～20時00分、土・日・祝日 9時30分～18時00分
- 休館日／月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)館内整理日:毎月第一水曜日(但し当該水曜日が祝日に当たる場合は翌日) 年末年始、特別整理期間
- URL／<http://www.city.shirakawa.fukushima.jp>



ているところです。

【木本】東日本大震災にて被災し、開館が遅れました。当時の被災状況をお聞かせください。

【田中】白河市は震度6強を受けました。建物には大きな損傷はありませんでしたが、被害としてはガラスが割れたり、内装がずれたり、書架の固定ボルトが緩んだ箇所もありました。また開館準備の最終盤だったので配架された多くの図書が落下しました。

次に建設関係の業者との連絡が取れませんでした。書架の固定も不安定な状態でしたが、メーカーの安全点検の要請にも連絡が取れな

い状況でしたので、メーカーとの調整に約1ヶ月程度かかりました。電話・交通網・ガソリン不足等が要因でした。メーカーの安全点検後、当初4/30のオープンが、9月開館として最終的な開館準備に取り掛かりました。その後、放射能の影響が明るみになり、子供たちは夏休み期間中、プールも外でも遊ぶ場所がなくなりました。そこで開館を早め7/24にオープンすることになりました。

【木本】今回の震災での教訓はなんですか。

【佐川】もし開館中に地震が発生した時のことを考えると、書架や造作

家具の地震対策は重要です。「免震書架」が目玉されるのではないのでしょうか。

他にも連絡網については、携帯電話を使えてないので、ハンディ無線の常備は必要だと思います。

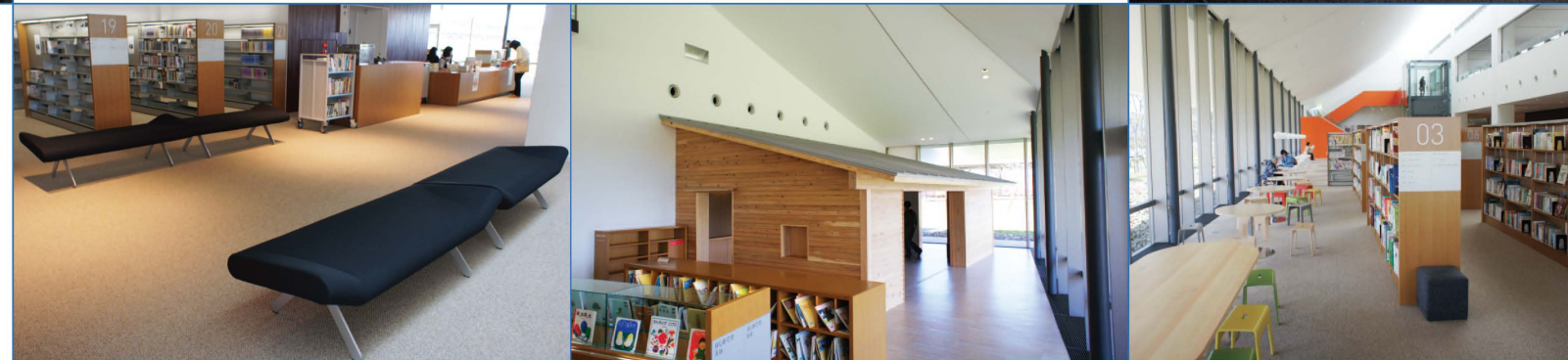
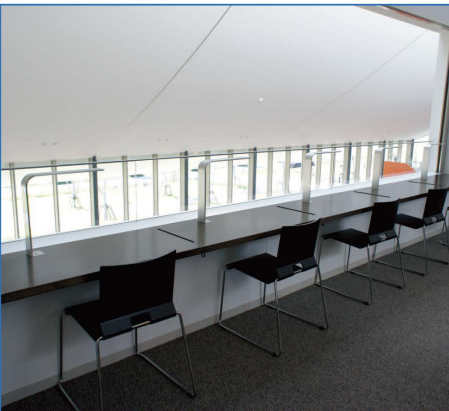
また震度4から「書架から離れてください」との館内アナウンスを徹底するようにしています。

【木本】最後に展望について伺います。

【田中】できるだけ多くの方々に来てもらい、利用していただきたいと思っています。現在、人口の10%程度の登録状況です。今後は学校との連

携も回り、アピールをしていきたいと思っています。

【木本】本日は貴重なお時間をいただきました。ありがとうございました。



高崎市立中央図書館／概要

- 所在地／高崎市高松町5-28
- T E L／027-322-7919
- 開館時間／火曜日～金曜日は、10時00分～20時00分
土曜日、日曜日、月曜日、祝日は、10時00分～17時00分
- 休館日／館内整理日(月1回) 特別整理期間(春・秋2回)
年末年始(12月28日～翌年1月4日)
- U R L／<http://lib.city.takasaki.gunma.jp/>



[木本] 高崎市立中央図書館が開館しました。開館までの経緯について、お話を伺います。

[大島] はじめに経緯について2点ほどお話しします。まず1つ目が施設の老朽化です。中央館ではこれまで旧高崎女子高等学校校舎を利用して来たため、施設の老朽化対策が急務でした。また、近年では利用者数や蔵書数の増加とともに建物全体が手狭になっていました。

このような状況により図書館建設計画へ着手することになるのですが、高崎市が平成23年4月の中核市への移行に伴い、保健センターとの複合施設として、新中央図書館の建設が進み、平成23年4月に開館いたしました。

えると思います。6Fには視聴覚の専用エリアを設け、視聴ブースを充実しており、多くの市民に大変好評をいただいているところです。

[木本] 開館してからの利用者の反応はいかがでしたか。

[大島] 統計的には9月時点の利用者数は平日約2300人、土日約3300人の方が来館され、旧館に比べ通常の約1.5倍に増加しています。

利用者の声をお聞きすると、非常

るデザインに配慮し、細かな部分にまでこだわりました。建物は免震構造で、書架は耐震設計です。メーカーの社内実験場にて耐震検証を確認しました。3.11の東日本大震災時は、高崎市は震度5強です。感覚的にはもの凄く揺れを感じましたが、配架していた図書は1つも落ちませんでした。多くの市民が利用する図書館は、免震・耐震の地震対策は必須です。今回は早速効果が表れ、大変安心しています。

[木本] 最後に、展望についてお話を伺います。

[大島] これまでの図書館は、大まかに図書の貸出をはじめ、利用者サービスが一般的でしたが、図書館機能だけでいいのかと考えています。例えば、本施設は中心市街地や駅前に立地していること、図書館は公共的な集客力のある施設であること、そういった賑わいを創出する拠点として、周辺地域への活性化にも影響を与えます。地域と連携

し、人の流れを作る。人が集う拠点として、街づくりに貢献できるように取り組み続けたいと考えています。

ますます複雑・多様化するニーズに対応するため、創意工夫を大切にしていきたいと考えています。

[木本] 本日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。



滞在型図書館を目指し、 新中央図書館の開館

高崎市立中央図書館

話し手
大島 勇人 (高崎市立中央図書館 庶務係長)

聞き手
木本 拓郎
(金剛株式会社企画チーム チームリーダー)

[木本] 新図書館の特長について、お話を伺います。

[大島] 新図書館では、図書資料にICタグを貼付し、自動貸出機や予約棚、自動仕分機などの導入により、利便性の向上に取り組んでいます。

この背景には、利用者プライバシーへの配慮や作業のスピードアップが目的でしたが、これらは日頃の窓口業務の中で、その必要性を感じていたものです。

また、公共の図書館で視聴覚資料を45千点所蔵していることが言

に高い評価をいただいております。広く落ち着いた空間の中でゆったりとくつろげる滞在型図書館として、満足いく多くのご意見をいただいています。今回、図書館における空間づくりについては、書架間スペースを大きくとり、ゆったり感を演出しました。また家具もソフトで高級感のあ



賑わい創造の再開発拠点づくり

くまもと森都心プラザ

話し手
倉永 孝信
(熊本市農水商工局商工振興部
くまもと森都心プラザ開設準備室 室長)

聞き手
木本 拓郎
(金剛株式会社企画チーム チームリーダー)

写真は、くまもと森都心プラザ提供

【木本】くまもと森都心プラザがオープンしました。再開発事業の視点から経緯と位置づけについてお話を伺います。

【倉永】はじめに、くまもと森都心プラザの概要を申しあげますと、地下1階・地上6階建ての再開発ビルです。約34万冊の収蔵能力を持ち、全国初のビジネス支援センター併設の図書館や約500席のホール、駅前の玄関口としての観光・郷土情報センターを配置しています。

再開発事業については、平成16年に組合施行から市施行に転換し、駅周辺の整備については平成17年に熊本県と熊本市が熊本駅周辺都市整備計画を策定しました。

情報センター等の複合施設を整備することになりました。

再開発事業の民間事業者は、公募による事業提案競技によって、森ビル都市企画㈱を代表構成員とするAbility 11グループに決定しました。施設の内装工事は、地元の建設業者が請負っています。

【木本】くまもと新都心プラザに新図書館が開館しました。

【倉永】熊本市立図書館に言及すると、分館・公民館図書室を含めると18箇所のネットワークを有します。開館して約30年経ち、これまで市民の皆様から新たな図書館整備についての要望を受け、市議会にて議論いただいていたのですが、具体的な計画には足踏みしていました。

平成18年3月に「(仮称)熊本市図書・情報センター基本計画」を策

定しましたが、議会の理解を得られず平成19年3月に「情報交流施設基本計画」を新たに策定し、新しい図書館運営(設備・サービスも含む)の具体策を検討しました。当時、全国の先進館では「IT・システム化」「指定管理者」「ビジネス支援」等の運営が進展し、それらの施設・運営を視察することで、見識や知識を高めていき、具体的な計画立案の参考になりました。

【木本】今回の施設運営は、指定管理者を導入されました。

【倉永】図書館の運営においては、直営・業務委託・指定管理者の運営手法について、市議会をはじめ準備室においても多くの議論の時間を費やしました。コストパフォーマンスの比較を行いながら、最終的には熊本市長が東京・千代田区立図

書館を視察し、運営状況に感銘を受け、指定管理者の導入に正式なゴーサインを打ち出しました。応札の結果、6社の共同企業体が指定管理者として運営します。

指定管理者の運営仕様書作りや応札、契約や打ち合わせの各プロセスには、多くの課題にぶつかりました。

【木本】課題とはなんだったのでしょうか。

【倉永】指定管理者の応募頂いた

くまもと森都心プラザプラザ図書館／概要

- 所在地 / 熊本市春日1丁目14番1号
- TEL / 096-355-7401 (代表)
- 開館時間 / 月曜日～土曜日は、9時30分～20時00分
日曜、祝日は、9時30分～18時00分
- 休館日 / 毎月第3水曜(祝日を除く)、年末年始、特別整理日(7日以内)
- URL / <http://stsplaza.jp/>



定期ミーティングのなかで情報共有・課題解決に取り組んでいきたいと思っています。

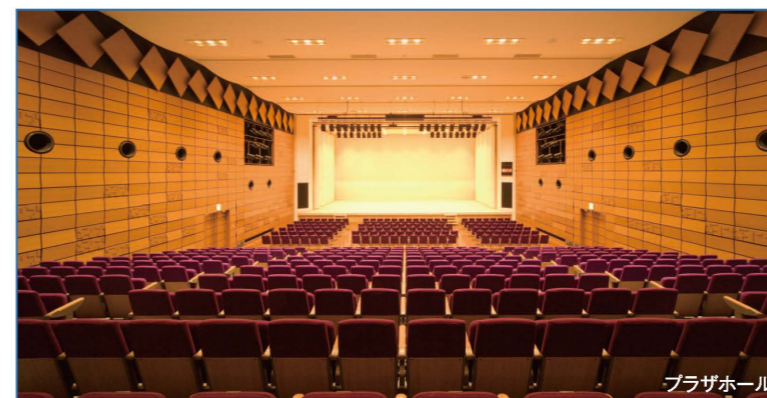
【木本】最後に、今後の期待・展望について伺います。

【倉永】平成23年10月に図書館、ホール、観光・郷土情報センターが開館し、平成24年春には民間テナント、35階建て高層マンションなどの再開発地区全体がグランドオープンします。正直、指定管理者の導入に関して期待と不安はありますが、最終的に

は多くの方々に喜んで利用いただければと思います。

周辺地区の住民をはじめ、駅前周辺の専門学校や予備校、JRを利用する学生やビジネスマン、熊本を訪れた方々の情報交流の起点となり賑わいを創造し、熊本の地域力が体现できる場として期待しています。是非、熊本にお越しの際、くまもと森都心プラザへお立ち寄りください。

【木本】本日は、貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。



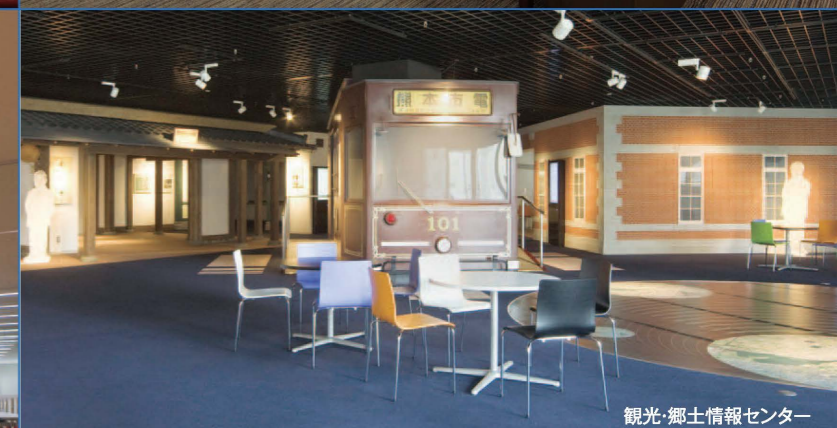
プラザホール



4F図書館



3F図書館



観光・郷土情報センター



ビジネス支援センター

会議室

【木本】 本日は東北大学様にお伺いしました。法政実務図書室のご紹介をお願いします。

【渡辺】 法政実務図書室は学部や附属研究所にある部局図書室として位置づけられています。新司法試験のための法科大学院と公務員等をめざす公共政策大学院専用の図書室であり、2004年に新設されました。両大学院への授業支援が主な業務になります。具体的には、授業で使用する教科書や参考書の整備と運用、学生からの問い合わせへの対応などを行っています。

【渡辺】 当日午後2時46分、開館中に地震が発生しました。建物が免震構造のため、ゆらゆらと大きく、長く揺れました。室内に学生と職員合わせて10名がいました。まずは安全に避難させることが一番に頭に浮かびました。ドアを開け避難通路を確保し、揺れが収まった時に速やかに外に全員避難しました。後に震度7だったと分かり、体感した揺れが震度5くらいだったので改めて驚きました。

本学の図書館・図書室のほとんどは、大量の図書資料が落下し、大きな余震もあって、完全復旧までにはさまざまな困難がありました。法政実務図書室では被害が軽微であり、新司法試験直前のため、学習環境を提供する必要があり、震災から4日後の3月15日から利用を再開しました。

被害が少なかった理由として、固定書架においては、落下防止装置(震度5程度の揺れで、書架上部3段が奥へ傾斜するために図書が落下しにくくなる)が作動したため、図書の落下はほとんどありませんでした。集密書架においては免震装置が作動し、図書の落下はありませんでした。また、ゴム付きのブックエンドの使用など、地震に備えた設備が極めて有効に働きました。

【木本】 地震への備えが安全を確保されたようです。

【渡辺】 私は宮城県沖地震を経験したため、普段から地震への意識を高く持っていました。

特に職場である図書室は、大学院教育にとって非常に重要な場です。地震によって重い図書資料が落下すれば、利用者は大きな危険に直面します。書架が破損すれば、修理や再配架などで復旧に時間がかかり、学習環境が損なわれます。学生は将来の夢に向かって勉強しているので、当然のことだと思います。

【木本】 学内の図書館(室)の地震の情報共有はいかがでしたか。

【渡辺】 附属図書館(本館)がコントロールタワーになり、被害状況を一元的に集約しました。学内各図書館(室)の開館情報は、インターネット上でを行い、被害状況や復旧状況の写真等も共有されました。

【木本】 最後に、地震についての教訓を伺います。

【渡辺】 まず1つ目には、利用者の安全、状況確認です。現在、何人利用しているのか、どこにいるのかを把握する必要があります。本図書室は規模が小さいので、目視確認できますが、規模が大きくなると、大きな課題となるでしょう。入退室者の

確認を正確に行うことにより、在室者数を迅速に把握でき、避難誘導・安全確認を行うことができます。2つ目には、避難通路の確認です。非常灯や出入り口、窓の開閉構造等を事前に把握する必要があります。3つ目には、図書資料の落下防止です。書棚からはみ出す大型本もあり、地震後、滑り止めシートを貼って

ました。最後に、時間外開室担当のアルバイトを含む職員全員が地震時に適切に対応する必要があります。地震対応マニュアルの整備だけではなく、普段の業務の中で、非常時の対応について繰り返し指導することが重要だと思います。

【木本】 本日は貴重な時間をいただきまして、ありがとうございました。



地震への備えと意識

東北大学大学院法学研究科 法政実務図書室

話し手
渡辺 順子
(東北大学大学院法学研究科法政実務図書室)

聞き手
木本 拓郎
(金剛株式会社企画チーム チームリーダー)

【木本】 専門図書室として、工夫がありますでしょうか。

【渡辺】 法律の改正に伴い改版が頻繁なので常に新刊情報をチェックしています。また、授業担当の先生方からは随時、指示が受けられるように連絡を密にしています。加えて、学生からの希望図書にも配慮しています。1学年110名ほどの学生がおり、授業期間中は、利用者への迅速な対応を心がけています。

【木本】 さて、3月11日の東日本大震災時の状況について伺います。



開架閲覧スペース



開架閲覧スペース



地震対策(天ツナギ)

地震対策(傾斜スライド棚)



地震対策(ゴム付ブックエンド)

東京工業大学の図書館

東京工業大学附属図書館

寄稿
小川 聡 (東京工業大学附属図書館 課長)

新図書館計画から開館まで

東京工業大学では、図書館機能の高度化を目的として、平成20年7月に図書館の新築が正式に決定した。調査結果で旧図書館の耐震性能が十分に確保できないとの理由もあった。平成21年8月に着工、平成23年2月末に竣工した。

そして平成23年7月4日正午に全面開館を迎えた。これに先立ち10時からオープニングセレモニーも執り行われた。5月16日から旧図書館を閉館しての移転期間中には、試験を控えた学生の学習を支援するため、新図書館の学習棟(2階と3階)のみ先行して学生に開放していた。なお、3月の東日本大震災で、老朽化した旧図書館で図書が

大量に落下したことや、安全確保と省電力対策を重視して、当初予定の9月26日から開館を早めた経緯がある。設計は、本学大学院理工学研究科建築学専攻の安田教授によるもので、3本のV字柱が地面から宙に浮き上がった印象の建築構造など、斬新かつ機能的でキャンパスの雰囲気と調和した地上3階、地下2階の建物として仕上がっている。

新図書館の将来構想について

新図書館が達成すべき将来構想として2項目を最重点に掲げている。
①先導的電子図書館の構築
②便利で快適な学習・調査空間とレファレンス機能の充実

上記の実現、とりわけ②のための3項目として、
1. 学習図書館機能(快適な学習・調査空間の提供、情報ナビゲータである図書館員による学習支援)
2. 保存図書館機能(学術資料の保存・検索の実現と電動集密書架による収容力アップ)
3. リフレッシュ機能(気分転換の場、意見交換やディスカッションの場)の充実を挙げ、人と情報が出会う図書館を掲げている。
そして、建築計画に際して、この将来構想や立地を考慮した以下の4つの設計上のコンセプトが盛り込まれた。

1. キャンパス内の動線の結節点となる建築(プロムナードに沿う軸線と、正門から線路に平行な軸線の交差点への配置)
2. 地下図書館エリア(気温や湿度変化が少なく図書資料の保存に優れ、静寂で落ち着いた閲覧スペース)と、ガラスでできた地上の学習エリア(透明感溢れるガラス作りで、軽快で開放的な学習スペース)とのコントラスト
3. 緑の丘に覆われた地下図書館(ソメイヨシノや大岡山周辺の植生を豊富に取り入れた「緑の丘」)
4. 自然光や自然通風を考慮した空間の創出(ワンルーム構成で快適なリビング空間)

図書館各階の特徴と機能について

各フロアは主に、以下に挙げた特徴や機能を有する。

■2階・3階(学習エリア)

- ①窓に面して配した大きな机とキャンパスの景色を堪能できる透明感のある学習スペース。
- ②ガラス面のパターンが直射日光を和らげる省エネ効果。
- ③最大30kWの出力が可能な側面及び屋上面の太陽光発電パネル。
- ④教育用電子計算機システム端末の設置

(2階)。

②地下1階(図書館エリア)
学習棟のピロティの下が地下図書館へのメインエントランスとなり、入口は地下1階となっている。

- ①入口そば壁面の返却口。
- ②東京工業大学基金の寄附者名が刻印された銘板。
- ③コンパクトで収容力のある新聞コーナー。
- ④カウンター、地下図書館エリア、中央閲覧スペースを広く見通せるエントランスロビー。
- ⑤図書・閲覧スペースへのアクセスが容易な受付カウンター、蔵書検索端末など。
- ⑥トップライトの下に設置された印象的な三角形のテーブル。
- ⑦一般図書や参考図書を見通せる、開放的な4段の低書架。

■地下2階(図書館エリア)

- ①天井の高い開放的な図書・閲覧スペース。大量の製本雑誌、会議録等の収蔵力を確保した8段の開架高書架。
- ②和・洋の新作雑誌計約2,000誌を配架した、見通しのよい、開放的な4段の低書架。
- ③高い収容効率と安全を考慮した電動集密書架。
- ④教員用及び、榮譽教授・名誉教授を対象に設置したブース。
- ⑤全面ガラスのリフレッシュルーム(気分転換・くつろぎの場。会話やディスカッションの可能な場)。
- ⑥講習会等を開催できるレクチャースペース(使用時には防音カーテンで仕切り、未使用時は一般閲覧席として提供)。

■地上1階

- ①外部とロビースペース及び地上2階と地下1階との重要なアクセスポイント。
- ②事務室への接続地点。

その他の建物の特徴及び利用概要について

■建物の特徴

建築面積が1,933.63㎡、延床面積が8,587.88㎡、敷地面積が137,060.64㎡。設計期間は、平成20年7月～平成21年3月。工事期間は、平成21年4月～本年2月。車椅子対応の乗用エレベ

ーター(15人乗り、45m/分)(学習スペース)設置。

■利用概要

蔵書数は約65万冊(収容総棚数:28,000棚)。座席数は721席(2階・3階:195席、地下図書館:526席)。貸出冊数と期間は、学部生が5冊2週間、大学院生と教職員が10冊4週間。開館時間は、授業期が8:45～21:00(土日祝日 11:00～17:00)、試験期が8:45～23:00(土日祝日 9:00～20:00)、休業期が8:45～17:00(土 11:00～17:00、日祝休館)、となっている。

■施設・設備

①電動集密書庫

導入にあたっては、電動書庫内の資料も全て開架とし、利用者が直接入って利用することを想定したため、特に安全性への配慮を重視した。人感センサ、免震装置、非常停止ボタン等、多重の備えで安全性を高めている。ま

た、検索システムを有し、検索結果から利用者に配架場所を案内することが可能である。

②省エネルギーへの配慮

学習棟の屋上には太陽光発電パネルが敷き詰められている。また、その壁面に1m間隔に取り付けられた日よけルーバーとともに、その南面に太陽光発電パネルが組み込まれた。ルーバーは将来、より発電効率のよいパネルが開発された際に容易に交換できるよう、特別に設計されたアルミ押し型材を用いた。これらのパネルによる最大発電量は30kWで、学習棟の消費電力の一部をまかない、1階ロビーには、発電量を表示するパネルが設置されている。また、学習棟屋上に降った雨水を集めて、丘の植栽への自動灌水やトイレの洗浄水の一部として活用している。

③東工大キャンパス無線LANの提供

(学習スペースと地下1、2階)

最後に

新図書館機能が、教職員の研究や学生の学習支援に貢献し、「学び」「知の集積」そして「大学の顔」の役割を十分に果たせるよう、図書館職員一同が、施設・設備やサービスの向上に努めている。新しい取り組みとして、平成22年度から「図書館サポーター」という活動を開始している。目的は以下の3項目である。

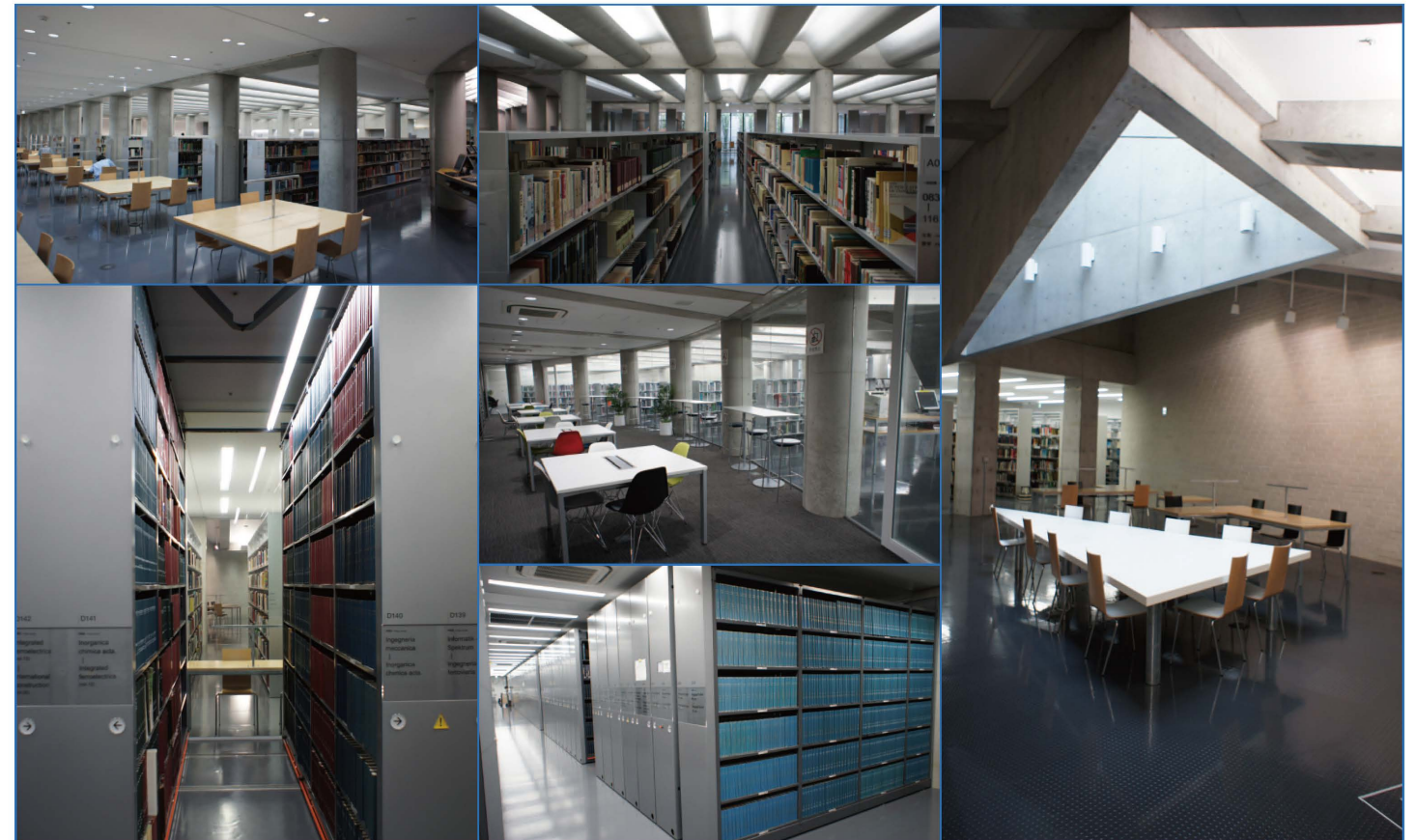
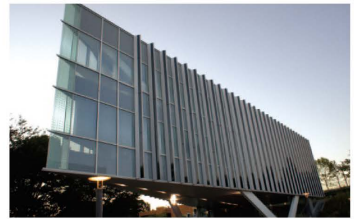
1. 学生を雇用し、図書館業務に学生の意見や発想を取り入れることでサービスの充実を図る。
2. 学生が大学(図書館)についての理解を深める一助となる。
3. 図書館サポーター間で情報交換等の交流の場を持つことにより学生生活における豊かな交友関係の形成に資する。

幸いにも多数の学生から応募があり、職員の意識向上・業務マニュアルの見直し等にも効果を上げている。今後は、学生サポーターによる学生相互の学習支援等も検討していきたいと考えている。

近年、理工系大学においては特に、学術資料の電子化が進み、資料の収集・提供はインターネットを通して行われる傾向にある。そのような時代であるからこそ、「場」としての図書館の意義が問われ、その存在感を示す必要があるだろう。キャンパス内の恵まれた立地を生かし、学生・教員が自ら集うような魅力ある図書館作りを目指し、将来構想で掲げた「人と情報が出会う図書館」を実現していきたいと考えている。

東京工業大学附属図書館／概要

- 所在地／東京都目黒区大岡山2-12-1-L-1
- TEL／03-5734-3221
- 開館時間／8時45分～21時00分
- 休館日／図書館カレンダーを確認ください
- URL／http://www.libra.titech.ac.jp/



自動化書庫の運用7年目

金沢大学自然科学系図書館

話し手
橋 美穂
(金沢大学自然科学系図書館 係長)

聞き手
木本 拓郎
(金剛株式会社企画チーム チームリーダー)

した理工系専門課程関連の資料を所蔵しています。それぞれの図書館の蔵書の特徴から各図書館では利用者層がはっきりと分かれています。**[木本]** 運営状況について伺います。**[橋]** 当館の職員は5名で、平日夜間や土曜日は学生アルバイト2名ずつで運営しています。主な業務は、閲覧やレファレンスなどの利用者対応です。選書については教員で構成される選書委員会で決定しています。当館では閲覧席(583席)、利用者用PC(約80台)グループ学習室やAVホールなどが整備されており、サービスポイントとなっています。

当館は研究室も含めると約35万冊の資料を所蔵しており、そのうち

約20万冊を自動化書庫に格納しています。書庫の収蔵可能冊数は約47万冊なので、約半分が格納されていることとなります。

次に利用状況ですが、年間入館者数は約12万人です。金沢大学附属図書館では一般市民の方も利用者登録をしていただくと図書の出納などの利用が可能となります。当館では年間約1600人のご利用があります。年間貸出冊数は約3万冊ですが、当館では雑誌の貸出は行っていません。また自動化書庫では、1ヶ月に約1000冊程度の取出し要求があります。

雑誌については、発行後1年経った物は製本し、10年分を閲覧室に配架します。その後、自動化書庫へ格納します。

[木本] 自動化書庫の運用についてお話を伺います。

[橋] 利用者のほとんどが図書館蔵書検索OPACを使い目的の資料を検索しています。資料が自動化書庫に格納されている場合は、OPAC画面にその旨が表示されます。自動化書庫への取出し要求は、館内にある専用端末3台から行うことができます。また、資料の受け渡しはサービスカウンターで行っています。

現在、自動化書庫に格納されている図書は、主に発行から時間を経たものやあまり利用頻度が高くないものなどです。また同じ図書が複数ある場合は、1冊を閲覧書架へ配架し、それ以外を自動化書庫に格納する場合があります。

自動化書庫に格納する資料は、事前に図書館システムにデータ登録されたものに限定しています。実

際の資料には識別のために、天の小口部分に「自動化書庫」と押印しています。自動化書庫へ格納する資料のデータ登録は図書館システム上で行い、その登録データを自動化書庫の書庫管理システムの蔵書マスタへ転送すると、登録作業は完了します。前日にデータ登録作業を行った新規格納予定の資料については翌朝以降に入庫作業を行います。こういった作業がルーティン化できています。

格納の際は、完全フリーロケーション方式を採用していますので、資料の種類やサイズを気にせず格納できます。出納ステーションではコンテナ回転機能もあり、効率よく作業できています。また、資料を格納する際、バーコードの読み込みと同時に1冊ずつの厚みも計測していることでコンテナの収納状況を効率よく

把握できていると思います。

[木本] 数点教えていただきたいことがあります。①自動化書庫の資料取出し要求端末が3台に限定されている点と②書庫内の環境について伺います。

[橋] 操作端末を限定しているのは、自動化書庫の格納資料はサービスカウンターでの受け渡しになりますので、館外から出庫指示が行われた場合、サービスカウンターへ来ていただくまでに時間が経過し、誰が出庫を指示したのか分からなくなります。したがって、サービスカウンター近辺の端末に取出し操作を限定しています。

また書庫内環境については温湿度計測器が設置しており、空調は温湿度変化に応じて自動運転の設定がされています。

[木本] 自動化書庫の運用における課題について伺います。

[橋] 現在、特に課題はありませんが、強いて言えば、資料はコンテナに格納されるので、背表紙ラベルや背文字などがコンテナの縁部分に隠れてしまいます。現状では、タイトルで判別しているか、1冊ずつ持ち上げてラベルを確認したりしています。

次に、自動化書庫の導入は大型の設備・システムの導入を伴います。図書館システムとの連携も行いますので、初期導入時期には多少のエラーやトラブル発生は否めませんでした。しかし、現在は大きなトラブルもなく概ね順調に運用しています。

[木本] 最後に展望について伺います。

[橋] 図書館の蔵書は増え続けますので、さらに自動化書庫の活用を

模索しています。現在はあまり利用頻度が高くないと思われる資料などを格納していますが、自動化書庫では格納資料の利用頻度を統計的に把握することができます。格納資料の再検討も含めて活性化させ、さらに利用者サービスの向上につながればと考えています。

一方で、当館は自動化書庫を導入している図書館として、本学の見学者の案内コースの中に組み込まれ、広告塔としての役割も担っています。

特に高校生や高校のPTA関係者、海外からの来館者の方々には、見学の窓から見えるクレーンの動作や出納ステーションにおけるコンテナの回転動作などが大変好評です。大学の絶好のPRの場にもなっており、今後も金沢大学のシンボリックな存在となることを期待しています。

[木本] 本日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。

金沢大学自然科学系図書館 / 概要

- 所在地 / 金沢市角間町
- TEL / 076-264-6554
- 開館時間 / 平日8時45分~22時00分
土曜10時00分~17時00分
- 休館日 / 日曜・祝日
- URL / <http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp>



開架閲覧スペース



出納ステーションの出納作業



自動化書庫の出庫操作端末



図書の天の小口部分への押印「自動化書庫」

書庫見学窓

文書を通じて過去・今・将来を司る

広島大学文書館



話し手
小池 聖一
(広島大学文書館 館長)

聞き手
木本 拓郎
(金剛株式会社企画チーム チームリーダー)

[木本]はじめに、広島大学文書館の位置づけについてお話を伺います。

[小池]広島大学文書館(以下、文書館)は、広島大学50年史編集にて収集された様々な資料を整理・保存し、法人文書(公文書)の管理を念頭に、平成16年の国立大学法人化と同時に設置されました。組織としては公文書室と大学史資料室の二室体制で運営し、広島大学にゆかりの3つの特殊文庫も有しています。

文書館は、広島大学がその活動の過程で作成した記録・文書のうち、継続的価値を持つものを管理、保存し利用に供するとともに、広島大学に関する史資料を収集・整理・公開し、研究に資している学内共同教育研究施設です。

平成23年(2011)年4月より公文書管理法に基づく内閣総理大臣の指定を受けて、国立公文書館同様に公文書の保存・公開を行うことになりました。

[木本]広島大学における公文書とは? 文書館の取組み・活動についても詳しくお聞きしたいと思います。

[小池]文書館における公文書とは、大学が作成する法人文書(法人化以前の行政文書も含む)であり、基本的に組織的に使用する政策文書です(組織共用文書)。

よく“歴史に学ぶ”と言いますが、行政機関、独立法人における政策

立案の多くは、保存されている公文書に基づく先例を基盤に行われています。このなかで、保存年限を過ぎたものが、特定歴史公文書として文書館で保存・公開されます。この為には、まず、公文書を無暗に廃棄されないようにする仕組みを作る必要があります。文書館では大学の財務・総務室総務グループと密接に連携し、現用記録の段階から文書管理に関与して、現用記録から特定歴史公文書となるまでを統一的に管理するシステムを構築しています。現用記録にアクセスできることは、国立公文書館を始め、他の国立大学法人の政令指定機関とも異なる点であり、広島大学だけの特徴です。

また、文書館では、文書管理者等に対する研修を行うとともに、校友会との連携や、公文書の利用促進を図るために教養教育科目として「広島大学の歴史」を開講、今では約1000名の学生が受講する講義に成長させるなどしてきました。大学院でも文書管理企画演習を行い、年2回の学内展示や公開講座等も行っています。

東日本大震災では被災した古文書や公文書の救出・修復が大きな課題となりました。この度、文書館と広島県立文書館との間で「災害等の発生に伴う史・資料保護に関する相互協力協定書」を締結し、組織として対応する仕組みも作りました。国立大学法人としてはもちろん、地域としても、国内初であり、先駆的な事例になるものと期待しています。

[木本]この度、公文書管理法でいうところの「国立公文書館等」として、政令指定機関に認定されましたが、

今後、行政や大学法人への参考情報をご教示願います。

[小池]内閣府の公文書管理委員会によるガイドラインにそって整備してきたのですが、幾つかの課題も感じています。その1つが、現用記録の取り扱いです。私どもは文書館創設時から現場での経験を通じて、公文書管理の学内スキーム作り、現用記録→非現用化→特定歴史公文書といった流れを整備してきました。この流れは、今ある歴史学のために行うというより、今を未来に残し、未来の歴史学に寄与することだと考えています。この点が公文書管理委員会では閉却されているのでは、と考えています。実際、文書館では、1年・3年・5年・10年・30年と保存期限が設定されている現用記録が期限満了の際、評価選別を行い、廃棄簿の記録をチェックするとともに、作成担当者と総務グループ、文書館の三者で協議し、重要な記録・文書については、文書館へ移管し、特定歴史公文書として保存しています。その際、文書館長は、総括文書管理責任者とともに、文書の最終的な廃棄権限を有しています。

アメリカのアーキビスト・シュレンバークは、現場を熟知し、実態に即した形での公文書管理を行いました。私も“現場で、自らが考えて、行動を起す”ことを強く意識しています。だからこそ、私たちは現場意識をもって、限られた予算の中ではありますが、「今」を未来に残し続けています。これからの国立大学法人は、東大の真似をして「牛後」としてのグローバル化を追求するだけでなく、地域特性に根差した…ローカルな力をもって個性を発揮すべきだと考えていま

す。その根幹に位置し、同時に先例等の蓄積により、業務効率をあげる組織として文書館が必要であると考えています。政令機関認定に当っては、学内の事務組織(業務組織)との連携による、いいチームを作れたことがポイントであったと考えています。

[木本]最後に、今後の展望についてお話を伺います。

[小池]公文書管理法はこれから5年かけて、見直されます。単に、直訳型の理想を強要するのではなく、それを利用しつつも、日本固有の文書文化に即し、現場の立場から、日本型の文書管理・文書保存を作り

だしていく必要があると考えています。公文書管理法の見直しは、公文書館法・国立公文書館法の改正とセットで行うべきだと思っています。

文書館としては、公文書室による特定歴史公文書の管理・保存を充実させるとともに、大学史資料室・特殊文庫を擁する学術的資料の充実を通じて、大学の個性化に寄与していきたいと考えています。同時に、文書館を外に開かれた組織とし、大学だけでなく、地域における教育研究基盤としての整備も続けていきたいと考えています。

[木本]今日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。

広島大学文書館／概要

- 所在地 / 東広島市鏡山1丁目11
- TEL / 082-424-6050(代表)
- 開館時間 / 9時30分～16時30分
- 休館日 / 土曜日・日曜日・年末年始
- URL http://home.hiroshima-u.ac.jp/hua/



(業務内容)

■法人文書の選別・整理

公文書室は、広島大学が作成した法人文書について、その重要度に基づき評価・選別を行い、特定歴史公文書として保管・公開しています。

■大学関係資料の収集・整理

大学史資料室は、広島大学に關係する個人文書(学術的資料)や、広島大学の沿革に関する記録、大学史にかかわる公刊行物等を収集・保存・公開しています。

■利用者サービス

閲覧及びレファレンスサービスを行います。

■調査研究活動

特殊文庫「森戸辰男記念文庫」「平和学術文庫」「梶山季之文庫」を有し、広島大学に關連する学術的資料を多角的に収集・保存し、一般閲覧及び研究を推進しています。

■教育活動

自校史教育として広島大学において教養科目「広島大学の歴史」の講義や大学院での文書管理企画演習等を開講しています。また、公開講座や学内展示、各種研修を実施しています。



公文書室書庫

中性紙保存箱の製作様子

保存箱の中身様子

閲覧室

手紙や文書の仕分作業様子

大学史資料室

聖徳大学川並記念図書館／概要

- 所在地／千葉県松戸市岩瀬550
- T E L／047-365-1111
- 開館時間／8時45分～21時30分
- 休館日／日曜日、祝日、創立記念日(4月27日)、聖徳祭関係の日、年末年始(12月28日～翌年1月5日)
- U R L／http://www.seitoku.jp/lib/



[木本] 本日は新図書館の経緯と位置づけについてお話を伺います。

[林] 聖徳大学は幼児教育を核に、女性教育を行っている総合女性大学で、附属幼稚園から大学院までの一貫した教育環境が整っています。聖徳大学川並記念図書館は聖徳学園創立75周年記念事業の一環として新築されました。最新設備を導入し、利用者の利便性や安全・安心の環境づくりは、川並弘昭前学長の図書館充実に対する長年の想いが実現されています。

現在、入館者数は1日当たり約2,000人で、以前に比べ2倍近くの増加です。

インのインテリアや家具は、居心地の良さを追求しました。これらの選定には、石井幹子デザイン事務所より監修をいただき、学生からも好評です。

館内にはこども図書館、聖徳博物館、貴重書展示ラウンジ、カフェなど各種の諸室を複合し、これまでにない新しい図書館となっています。特に、こども図書館では幼稚園児をはじめ、初等教育の学生や教員が、読み聞かせの教育実習を行える場として活用されています。また本だけでは学べない、実体験できる場として、「たいけんの部屋」と呼ばれる部屋を設け、あそびを通じて学べるようになっています。

さらに、環境に優しい施設づくりにも取り組んでいます。屋上緑化をはじめ、トイレに雨水を再利用した中水を使ったり、省エネのためのLED照明の採用、CO₂削減のため館内の冷暖房の熱源を都市ガスにしたり、さらに外壁には太陽光発電を設置するなど、環境に対して最大限配慮しました。

[木本] 東日本大震災での影響はいかがでしたか。

[林] 3.11の当日は松戸市でも立っていられないほど、大きな揺れを感じました。学内では卒業式が行われた後で、図書館利用者がほとんどいない状況でしたので人災がなく幸いしました。なお当日は館内にいた多くの職員は、防災訓練通りに避難できたので安心しました。

落ち着いた後に館内に入り、安全確認を行いました。開架エリアを導入した免震書架が効果を発揮し、

図書の落下はほとんど見られませんでした。一方雑誌架や免震書架ではない書架からの図書の落下があり、自動書庫システムが地震により一時的に停止しました。

今回、図書の落下を最小限度に抑えることができたので、翌日にはシステムも含めて復旧し、利用者サービスができるようになり、よかったと思います。

[木本] 地震での教訓はなんですか。

[林] 免震書架の安全性は確認で

きましたが、多くの学生利用時の地震発生を想定した、避難誘導的確に行う必要があります。学生の安全を確保するための避難経路の再確認が重要だと感じています。

[木本] 最後に、図書館サービスにおける展望をお聞かせください。

[林] 図書館としては、施設活用や学習環境のハード面は整備できましたが、学生利用に向けたソフト面の充実を図りたいと思います。具体的には、教職員と連携し、ICTの活

用やラーニング commons の充実により、図書館利用をさらに促進できるように努めていきたいと思っています。

次に学生の参画です。現在約20名の学生ボランティアがいて、選書や配架等の図書館業務をサポートしてもらっています。選書した学生が一口コメントを付けて展示配架する試みは、学生へのモチベーションの向上だけではなく、図書も多く手に取られて貸し出されています。

また聖徳大学は全国区から入学してきますので、学生の出身地の地

方新聞を取り寄せ配架しています。地元への就職情報も配慮した新聞サービスは、学生からも高い評価をもらっています。こういった学生からのニーズをくみ取り、さらに利用しや

すい環境づくりに努めていきたいと思っています。

[木本] 本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。

図書館

10

INTERVIEW

利用者の利便性や、安全・安心の図書館づくり

聖徳大学川並記念図書館



話し手
林 政彦 (聖徳大学図書館事務室 室長)

聞き手
木本 拓郎 (金剛株式会社企画チーム チームリーダー)

[木本] 図書館の特長について伺います。

[林] 当館では、非接触型ICカードを用いた入退館ゲートや随所に防犯カメラを配備しセキュリティ性を高めました。また、地震対策として図書の落下や利用者の身を守る免震書架の採用、館内のOPAC検索機から読みたい図書を要求すると自動で出納する自動書庫等の最新設備を導入し、利用者の安全や利便性に最大限配慮された設計としました。

館内はゆったりとした閲覧席や個人学習席を大幅に増やしました。ポップで女性の感性をくすぐるデザ



開架閲覧スペース



新着の企画展示コーナー



たいけんの部屋

学生ボランティアの一口コメント



メディアパーク



貴重書展示ラウンジ



聖徳博物館

テレビのニュースで、10月の初め正倉院の宝庫にモーニングに身を固めた行列が静々と入ってゆくシーンを見かけたことはないだろうか。そう正倉院西宝庫の御閉封の儀式の一コマである。正倉院ではこの日から約2か月の間、ふだんは閉ざされている西宝庫(1962年竣工)内で、平日に一日4時間、保存課職員計14名が一丸となって宝物に関する様々な作業を進める。もっとも重要な作業は宝物の点検であり、前年に宝庫が閉まってから約10ヶ月の間に、何か宝物に異状が生じていないかどうか、西宝庫にある全ての宝物について確かめるのだ。

1班は通常3～4人構成であるが、特別大きな宝物に対しては6人ほど

は物理的損傷の有無や経年劣化の進行状況の把握などである。正倉院宝庫の空調運転時間は通常期が1日3時間。暑い季節や開封期間などはこれを延長するが、それでもせいぜい6時間運転である。土日や休日には空調運転はしない。庫内は、湿度については設定値が60%であるが、温度は外気の推移に沿わせているため、一年を通すと3℃～30℃の範囲で変化する。このため残念ながら庫内の温湿度環境は酷暑期には乾性黴の発生領域に入る。したがって黴が万が一認められた場合には、エチルアルコールによる拭拭等の処置を施すことになる。また防虫のための忌避剤は樟脳を用いており、昇華して無くなったものについては、新しいものを補充する。宝物の傍には点検カードが置かれ、点検終了後は、その所見を記入し、次年にその宝物を点検するであろう誰かに情報を伝える。

宝物の点検は1点につき5分～20分程度であり、ものによって所要時間の差はある。点検の場は、実は教育の場でもある。ふだんの上下関係や所属部署に関係なく、ベテランの職員が、経験の浅い若手職員に、個々の宝物についての扱い方を具体的に教える。丈夫そうな宝物でも1250年の経年により、どこかが弱っていることが多い。また蓋ものなどでは、蓋を開けるのに相当なコツを要するものもある。

点検している宝物がどのような来歴を持ち、どのような材料・技法を用

い製作されているのか、あるいは銘文の有るものについては、何が書かれているのかなど、文化財としての宝物が内包する様々な情報に関して、わずかな時間ではあるか、そこで会話が交わされる。文化財を守る上で最も大事なことは、対象となる文化財に愛着を持つことであろう。そのような意味でも、正倉院ではこのわずかな時間の積み重ねをとっても大切にしている。

11月の末に、西宝庫では御閉封の儀が執り行われ、宝庫は再び閉ざ

される。それまでに西宝庫にあるすべての宝物の点検を終了し、また前日には、保存課職員総出で、庫内の環境を可能な限り清浄に保つため、清掃を行う。普段は家で掃除をしないような職員も、この日は率先して掃除用具を手に取り、作業に勤しむのである。

なお西宝庫の秋の開封期間中、このような宝物の点検は全体の作業量の約半分程度である。他の時間は、奈良国立博物館に出陳される宝物の引き渡しと引き取りのため

の点検や、外部の調査員を交えての宝物特別調査あるいは模造品作製事前調査、宝物の写真撮影、外部依頼による調査や写真撮影の対応などに当てている。

1959年までは、この点検作業は実際に宝物が置かれていた正倉院正倉で行っていた。宝物は風通しされ、また時として太陽光が庫内に差し込むこともあり、「曝涼」と呼ぶにふさわしい状況であった。現在は、人海戦術を基本とする「曝涼」時代の長所は引き継ぎつつ、空気

調和設備・空気浄化設備を有する宝庫で、以上述べたような点検を行っている。

正倉院の保存課職員は、染織・工芸・文書・保存科学・修補・写真など各自専門を有するが、全員もとても大切な仕事は宝物の保存に関することと心得ている。正倉院にはじめて保存科学の専門職員が配属されたのは1973年のことであるが、このような点検システムはそれ以前から作り上げられていた。現在でこそ正倉院の保存科学は3名となり、空気汚染、

虫害、黴害などに関して様々な積極的対策を講じることが可能になりつつあるが、宝物保存の現場での担い手はいぜん保存課職員全員であることに変わりはなく、このシステムが維持できる限り、宝物は安全に次代に引き渡すことが可能なのである。

筆者は、気が付けば30年近く正倉院宝物の保存にかかわる仕事をしてきた。立派な設備や充分な予算があれば、それに越したことはないが、最後はやはり「人が守る文化財」、というのが実感である。

文化施設



正倉院の開封作業
—西宝庫における正倉院宝物の点検—

宮内庁正倉院事務所

寄稿 成瀬 正和
 (宮内庁正倉院事務所保存課 課長)

による構成となる。宝物によっては一人で扱うことが可能なものも少なくないが、複数で行うのは、異状の発見および宝物の取り扱いに万全を期すためである。

宝物のほとんどは容器に入っているが、扱いに問題のない宝物については取り出して、また染織品など脆弱な宝物は蓋をはずした状態で、それぞれ点検を行う。まず宝物をざっと見渡し、次には懐中電灯で照らしながら細部を丹念に見る。点検のポイントは新たな虫害や黴害あるい



花氈(かせん)の点検の様子



新羅筆の点検の様子



庫内での清掃の様子

市民ボランティアの活動の場

九州国立博物館

寄稿
内田 祥乃
(九州国立博物館ボランティア)

九州国立博物館 ボランティア

九州国立博物館(以下、九博)ボランティアは、九博の開館に先立ち2005年5月に発足いたしました。展示解説・教育普及・館内案内(日本語・韓国語・中国語・英語・手話)・資料整理・サポート・イベント・学生・環境の8部会12グループがあります。どの部会も、九博の「市民と共に、自然と共に」ある取り組みを市民の立場で体感し、地域や家庭にひろげていくことも活動の一つです。原則として3年の任期制で、2011年度より第3期に引き継がれています。

そのなかで「ミュージアムIPMの考え方で文化財を守る」お手伝いをさせていただいているのが環境部会38名(10月現在)です。ボランティアを始めるまで、どのような活動をする部会なのか全く知りませんでした。展示解説や館内案内のようにお客様と直接お話しするのはちょっと苦手、裏方で役に立てることはないか、そう考えて、何もわからないままこの部会を選んだ方も少なからずいます。

活動を始める前に

ボランティアが活動するための研修・実習には、じっくりと時間がかけられています。九博の理念やIPMの歴史、これまでの取り組み等、ミュージアム

IPMの基本・考え方ははじめにしっかりと学びます。ミュージアムIPMを効果的に採り入れるため、収蔵庫に使う木材を一本一本目視点検なされたことや建設時の清浄度維持のためのさまざまな配慮等、初めは「本当にそこまでしたの?」と思えたことも、繰り返し行われた研修の中で、開館に至るまでの多くの方々のご尽力を実感してゆきました。九博のガラス壁面に映る森、空の色。それは、そのまま九博を包む環境の証。これを守ってこられた方々の暮らし・思いをも共に次へと紡いでゆきたい、守るべきものは、博物館の内のものだけではなく、博物館を包むこの環境共である。九博が目指したその思いに、どれだけの皆様のご尽力なされたかを教えていただくにつれ、そこに市民ボランティアが参画できる喜びと責任を感じました。

活動の基本

環境ボランティアの活動の基本は、「観察」「記録」、そしてその「継続」です。基本活動の柱となる日常の観察を、九博では「IPMウォッチング」と呼んでいます。館内の情報を集めるには、たくさんの方の目が必要です。お客様のいらっしゃるエリアなら、市民ボランティアも参加できます。九博学芸部博物館科学課をはじめ館職員の皆様のご指導を受けて、各々感性を活かし楽しみながら観察し、確実に報告する、それが環境ボランティアの活動の基本です。生物トラップの交換もさせていただいていますが、虫を捕まえるのが目的なのではなく、「インジケータ」の呼称の通り、館内の状態を把握するためのもの

です。日記温湿度計の記録紙の交換も同じです。メンテナンスもただきれいにするのが目的なのではなく、「今」の状態を観察し、記録に残すために行います。

活動の「目的」を 忘れないために

ウォッチングをはじめ環境ボランティアの活動は結構地味なものです。特に何も変わりが無いのが文化財にとっては一番良いこととわかっていても、手応えがないと寂しくなります。慣れてくると、活動自体が目的になって、大事なことを忘れてしまうこともあります。

そうした時、繰り返し研修や関連する講義を受けることの大切さを改めて実感いたします。活動を始める前に聴いてもわからなかったことが、実践することによってわかるようになり、さらにまた研修を受けることでより段階を踏んで理解できるようになってゆきます。2011年は特別展「よみがえる国宝」で、千年以上も人の手で守られてきたものをすぐ目の前で拝見することもできました。守ってこられた方々のお話も直接おうかがいすることができ、技やものを受け継ぐ重みも教えていただきました。何のための活動なのか、守ろうとしているのは何なのか、学びを重ねることは大切です。

九博ではボランティアから地域へ発信する機会もあります。知らせるには自分が理解していないと伝わりません。ポスターや冊子を作製する過程で、改めて活動の意味を自身に問うことができます。

市民ボランティアの ミュージアムIPM

環境ボランティアは、九博で誕生いたしました。2011年で7年目。まだまだ、環境ボランティアといえば「虫退治」、ウォッチングは「虫探し」と思っている方も多くおられます。

ミュージアムIPMは特別なことばかりではありません。一見関係ないと思われることも根底でつながっているものもあります。ミュージアムIPMって何だろうと首を傾げていた私どもも、教えていただくにつれ、それぞれ仕事でやっていたことが名称は違えど基本的に同じものであるとわかってきました。家事や趣味でやっていることの中にもミュージアムIPMにつながるものを見つけて嬉しくなることもあります。江戸時代の地方文書を読んでいますと「IPM(総合的有害生物管理)」という言葉ではもちろんありませんが、関連する多くの記述が出てきます。何度も何度も蝗の害や天災に見舞われた先人は、その被害を少しでも予見し軽

減するためさまざまな知恵を生み出したことがわかります。日々の暮らしの中で暮らしを守るために生まれ育まれた技が、今のミュージアムIPMにつながる知恵でもあったことを知るたび、これを伝えてゆくことの大切さを改めて思います。

未来へ紡ぐために

文化財は先人の生きた証。大切に思い、守り継いできた人がいたからこそ今ここにある、と知る事が始まりでした。今日まで紡がれてきた技と場所、包む環境をも共に次世代につないでゆくために、それぞれの立場の人が各々に合ったやり方で担っていく、それが「ミュージアムIPM」。そこに市民ボランティアにもできることもあると教えていただいたのは大きな喜びです。だからこそ、自分たちの活動が文化財の脅威とならないように、専門の皆様のご指導のもとで、楽しく息の長い活動を続けてゆきたいと存じています。

九州国立博物館／概要

- 所在地 / 福岡県太宰府市石坂4-7-2
- TEL / 092-918-2807(代表)
- 開館時間 / 9時30分～17時00分(入館は16時30分まで)
- 観覧料 / 一般420円・大学生130円(特別展は別料金です)
- 休館日 / 月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日)
- URL / http://kyuhaku.jp



九州国立博物館 市民ボランティア
九博は、この地に暮らす多くの住民の粘り強い誘致を受けて誕生した。「市民と共に」をコンセプトにする九博が、来館者サービスの充実とともに、生涯学習の推進及び市民による博物館活動の支援を目的に導入。任期は3年。終了後1年毎の登録更新で最長3年まで活動の継続が可能。発足時の1期(293名)に続き、2008年2期(388名:うち登録更新151名)、2011年3期(393名:うち登録更新133名)に引き継ぐ。新規募集も任期の切れる3年毎。



研修風景



研修風景



研修風景



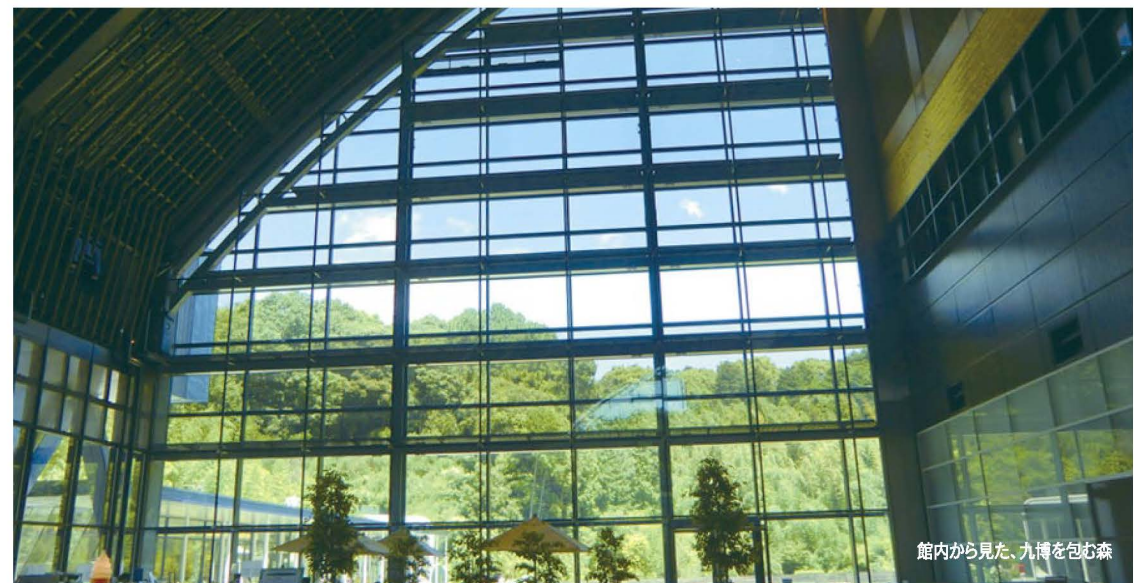
収蔵庫前室兼通路メンテナンス



インジケータ作成



インジケータ交換



館内から見た、九博を包む森



ウォッチング風景



ウォッチング風景

地域のアイデンティティを発信する

花巻市総合文化財センター



話し手
高橋 信一郎
(花巻市総合文化財センター 席主任学芸員)

聞き手
木本 拓郎
(金剛株式会社企画チーム チームリーダー)

【木本】花巻市総合文化財センターの位置づけや特長について、お話を伺います。

【高橋】平成18年に1市3町が合併した花巻市において埋蔵文化財保護のための中心施設として、平成23年に開館しました。まず花巻市総合文化財センター(以下、文化財センター)の建設計画の経緯についてお話しすると、市町村合併に伴い所蔵する埋蔵文化財の登録方法や保管状況がバラバラであったこと、資料の整理作業を分散して行って非効率であったことから埋蔵文化財資料を集約して保管・収蔵し整理・調査研究を行う施設として、文化財センターの建設がスタートしていきました。

文化財センターの特長としては、1Fに展示室を設け、市内にある早池峰山の動植物やユネスコ世界無形文化遺産でもある早池峰神楽を意識した展示をしているほか、埋蔵文化財を活用した体験学習室が設置されています。2Fには収蔵庫を設けました。収蔵庫の一部に見学窓を設け、見せる展示を行っています。なお収蔵庫には、現在、市が所有する資料類約5000点(岩手県に預けている文化財資料も含め)を収蔵しています。

【木本】現在の日常業務について、お話を伺います。

【高橋】大きく2つほど紹介します。1つ目は、冒頭お話しした合併後の埋蔵文化財の整理・台帳登録についてです。5000点余りの資料についてデータベース化を進捗中であり、できるだけ早期に構築したいと考えています。2つ目は、発掘調査になります。市内で行われる公共工事や住宅建設時に埋蔵文化財を保護するために確認を行い、必要に応じて記録保存のための発掘調査をし、調査報告書を作成するための作業を行っています。

【木本】3月11日東日本大震災について、お話を伺います。

【高橋】当時私は外出していましたが、尋常ではない揺れでした。地面は波を打つように動いており、恐怖を覚えました。ちょうど展示室工事が終わる時期に地震が発生しました。地震により物流が困難になったため、職員をはじめ、工事関係者も全く身動きが取れなくなったために、工事は完全ストップしました。収蔵庫の棚は落下防止対策や棚の固定を施していましたので、まったく大丈夫でしたし展示ケースの被害もありませんでした。

しかし、展示工事がストップしてしまったため、開館は当初4月2日から、5月22日に延期になりました。開館時期については、東北地方はまだ落ち着いておらず、混乱している状況のなかで、開館の是非について協議されましたが、市長より「どこかが動き出さないと始まらない。自粛ではなく、復興に向け積極的にPRする」といったリーダーシップが開館を後押ししました。

【木本】震災での教訓についてお話を伺います。

【高橋】まず、収蔵資料の固定方法

を再検討していきたいと思います。今回の地震では被害は最小限度にとどめることができましたが、周辺施設の被災状況も考慮すると、地震の揺れの方向では大きな被害が想定されます。次への備えが重要だと考えております。

次に、近隣自治体(陸前高田市や釜石市、大槌町)への文化財支援に携わりました。市博が津波被害を受けて、文化財をはじめ資料台帳も流された状態での文化財レスキューです。資料の管理体制や、文化財関係の緊急時のマニュアル作りも各方面の連携が重要だと感

じました。最後に、今回初めて緊急地震速報のメール受信を経験しました。停電やガソリン不足といった生活インフラの確保が、生きていく上で改めて重要だと考えさせられました。個人的な地震の備えも大事だと強く感じています。

【木本】最後になりますが、展望についてお話を伺います。

【高橋】国・文化庁では、文化財の保存と活用に力が入っています。私も、子供たちに実際の体験学習を通じて伝えていく大切さを改めて

感じ、多くの方々に身近に感じていただくような工夫や集客策を講じていきたいと思っています。

博物館等の文化施設の生き残りの時代に突入したと言われていますが、地域の財産を保全し、地域のアイデンティティを発信していく、花巻市の歴史を知る入り口の存在になるよう、取り組んでいきたいと思っています。

【木本】本日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。

花巻市総合文化財センター／概要

- 所在地 / 岩手県花巻市大迫町大迫3-39-1
- TEL / 0198-29-4567
- 開館時間 / 9時00分～17時00分
- 入館料 / 一般200円、小学生・中学生・高校生100円
- 休館日 / 年末年始(12月28日から1月3日)
- URL / <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/culture/kyobunka/>



展示室(早池峰の自然)



展示室(早池峰信仰と神楽の世界)



早池峰山岳博物館



地震対策(落下防止バー)

収蔵庫(見学窓)

地域社会に根ざした大学ミュージアム

龍谷ミュージアム



話し手
熊谷 睦史 (龍谷ミュージアム 事務部長)

聞き手
木本 拓郎
(金剛株式会社企画チーム チームリーダー)

【木本】平成23年4月に龍谷ミュージアムが開館しました。経緯や位置づけについて、お話を伺います。

【熊谷】龍谷大学(以下、龍大)は、僧侶の養成機関として1639年に創設された学寮を起源とし、今日に至るまで仏教を中心とする様々な学術資料を収集してきました。現在では国宝や国の重要文化財などを始めとする文化財を多く所蔵していますが、それらを常に公開する施設がありませんでした。そこで、10年スパンで計画・実行する第4次長期計画(2000年～2009年)にて博物館構想を掲げ、大学と社会の接点として、生涯学習や研究成果の社会への還元の場として、開設に向けた検討を開始しました。

一方、学術審議会は、平成8年にユニバーシティ・ミュージアムの設置を奨励する提言を表明しました。それを受け、東京大学を始めとする国立大学に博物館が次々に設置され始め、追随するよう私立大学も取り組み始めていました。

多くの大学博物館はキャンパス内にあるのですが、西本願寺から正面の敷地を無償貸与していただき、「街に開かれたミュージアム」の開設を目指しました。

【木本】龍谷ミュージアムの特長をお聞きます。

【熊谷】1つ目は、浄土真宗に限らず、仏教を網羅的に分かりやすく紹介する、世界初の仏教総合博物館という点です。2つ目は、龍大における研究成果を公開するだけでなく、近隣地域の交流拠点として、住民と共に多彩な文化的活動を展開する地域に根ざした施設である点です。敢えて龍谷大学博物館とせず、「龍谷ミュージアム」と称したことも、一般の方々にも、少しでも身近に感じて頂きたいという願いからのものです。近隣の門前町界隈は、信仰の集う街として、仏具や念珠、お香、茶道といった伝統工芸や文化が息づく所です。龍谷ミュージアムが、さらに活気溢れる街並みになるよう、住民と共に様々な取り組みを行っていきます。8月には、地下1階のエントランスホールで、龍大学生による雅楽の演奏会を行いました。多くの住民の方々が、家族連れでお越しになり大盛況でした。

【木本】今回の計画に当たり、ご苦労のエピソードをお聞きます。

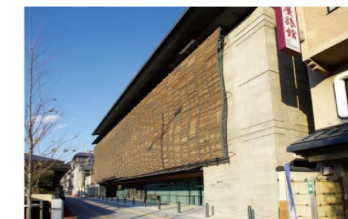
【熊谷】開設までには、大学内での合意形成をはじめ、様々な局面で問題や課題が多くありました。その一つに、いわゆる京都市景観条例への対応がありました。建物の高さ、デザイン・配色の制限など、この条例には細かな規制があり、特に、世界文化遺産である西本願寺の正面というこの敷地は、一番厳しい規制が敷かれていました。そこで、設

計者とともに何度も京都市役所を訪問し、協議を重ねました。絶対条件とした展示室と収蔵庫のスペースを確保するため、このような条件のもとで検討を重ね、外観を含めて決定するまでには多くの労を費やしました。

した。利用者としての視点に立つことは、私が最も大切にしました。既設の博物館学芸員の方々を始め、多くの方々のアドバイスが肥やしとなりました。特に、当時の京都国立博物館学芸課長であった森田稔さん(現・九州国立博物館副館長)には、設計図面を何度もご覧いただき、

龍谷ミュージアム／概要

- 所在地 / 京都府京都市下京区西中筋通正面下丸屋町117
- TEL / 075-351-2500
- 開館時間 / 10時00分～17時00分(入館は16時30分まで)
- 常設観覧料 / 一般500円、シニア400円、大学生400円、高校生300円、中学生以下無料
- 休館日 / 毎週月曜日、祝日は開館(翌日は閉館)、その他展示替え等による休館あり
- URL / <http://museum.ryukoku.ac.jp/>



的確なアドバイスを頂戴したことは貴重な財産となりました。

【木本】今後の展望や取組みについて、お話を伺います。

【熊谷】開館してまだ半年しか経っていませんが、リピーターを確保するためには、魅力ある展覧会を継続的に開催することが一番だと考えています。また、多くの大学博物館は無料ですが、龍谷ミュージアムでは観覧料を頂いています。有料であるからこそ、しっかりとした展覧会を開催しなければなりません。今年度の目標来場者数19万人を掲げ、全国的にも広報活動を展開しています。当

館だけでなく、世界文化遺産である西本願寺や文化や歴史の風情溢れる門前町、京都市も含めた連携を持ちつつ、地域全体でPRできればと考えています。

【木本】今日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。



3階 展示室



2階 展示室(ベゼクリク石窟回廊復元展示)

また、私は博物館の建築については全くの素人でしたので、100件以上の全国の博物館や美術館を視察し、自分が見て・感じて・聞いたことをもとに、想いを具体的に設計者に示し、理解を深めながら進め



龍谷大学オリジナル
多機能端末



エントランスホール



収蔵庫

写実絵画専門美術館の開館

ホキ美術館

松井 文恵
(ホキ美術館 広報事務局)

ホキ美術館の紹介

ホキ美術館は、2011年11月3日に、千葉市緑区あすみが丘に開館した、日本で初めての写実絵画専門美術館である。東京駅からJR京葉線・総武線で約1時間、外房線の土気駅が最寄り駅で、千葉市最大の公園である緑豊かな昭和の森に隣接しており、新興住宅地を抜けていくと忽然と現れる最新鋭の美術館だ。

写実絵画と一口にいっても、その定義は難しいが、対象を見たまに描くことを基本に、作家の意図や想いが具現化された絵画である。所蔵作品は現在300点を越す。1部上場の医療メーカー、ホギメディカルの創業者であり館長の保木将夫のコレクションである。10数年前に、森本草介の描く美しい婦人像の作品

に出合ったのをきっかけに、写実の中でも特に細密画といわれる分野に特化して収集を進めてきた。作家はほぼ98パーセントが日本の作家で約40人、しかもほとんどが現役で活躍している。館内には8つの写実絵画のギャラリーがあり常時、約160点を展示しており、そのうち60点は、半年ごとに企画展として展示替えを行っている。これまで、「開館記念特別展」、「静物と風景画展」を行い、次は人物画の展覧会を予定している。

そもそも、ホキ美術館開館の構想に至った経緯を振り返ってみよう。館長が写実絵画のコレクションを始めた当時は自宅に作品を展示し、社員を集めてときどき披露していたが、やがてそれらを一般の方々に見ていただくと考えた。そこで、自宅の隣を収蔵庫兼展示場に改築し、年に2回公開することにしたのだ。

告知は、家の前に、「○月○日、公開します。」と貼り紙をただけである。しかし、一歩足を踏み入れてその作品の細密描写のすばらしさに感銘を受けた人々は、次々に携帯電話で人を呼び、午後からまた人が増える。最初の年に200人の来場者であったのが、年を追うごとに400人、600人、と増え、1日1000人を超す人々が集まるようになった。館長は、写実絵画に対する人々の確かな手ごたえを感じ、これはもう美術館をつくるしかない、と思ったという。

ホギメディカルの赤坂の本社ビルを手掛けた日建設計の山梨氏に相談し、まず、美術館の土地探しから始めた。自分の足で候補地を回り、千葉の昭和の森のそばでまだ造成されていない土地を決めるに至った。6年ほど前のことである。美術館の建物について、設計者に頼んだことは、「そばを通った人が入ってみたくと思うような建物を作って下さい」。館長のリクエストはただそれだけだった。やがて2010年9月に竣工した建物は、昭和の森に向かってゆるやかにカーブを描いた回廊型の長い筒のような建物を5つ組み合わせ、しかも後方に突き出たギャラリーは30メートルが宙に浮いているというユニークなものであった。住宅地に隣接していることから高さは制限され、地上1階、地下2階の構造となった。昭和の森側から来た人々は、その特異な建物に引かれ、また窓があるギャラリーは外から作品を垣間見ることのできるため、道行く人々の興味をそそる。また、展示室はゆるやかなカーブをともなっていることから、隣の絵が見えるようで見えない。1点1点の作品に集中して鑑賞することができるのだ。企画展示室ギャラリー1は建物が鉄板でできているため作品は壁に強力なマグネットでつけられたフックにかかっており、ピクチャーレールやワイヤーなど、鑑賞の妨げになるものは何もない。あるのは白い壁と作品のみである。また特徴的なのは美術館としては初めての全館LEDの採用である。し

かも赤系と青系の2種類のLEDを8000台組み合わせ、一つひとつの作品に最適な光を作り出している。さらに床には足腰に優しいラバー素材を採用し、長時間の鑑賞でも疲れにくいような工夫を行った。また、ギャラリー1には昭和の森側の低い位置にずっと窓があり、明るい光を探り入れながら、遠くには緑が見えるという、森と一体化したミュージアム環境を創出しているのが特徴である。このように、鑑賞者が、写実絵画を存分に楽しんでいただける工夫を重ねた建物になっている。

ギャラリー2以降は、常設展示室で、森本草介から始まり、野田弘志、磯江毅(故)など、作家ごとに作品が展示されている。中堅作家、若手作家と並び、ギャラリー5では、陶磁器作品も展示されている。ギャラリーごとに天井の高さや展示スペースの回廊の幅が違い、雰囲気の違いを味わっていただきながら、階段を降りて地下2階までくるとクライマックスは「私の代表作」のコーナーだ。こちらは、開館2年ほど前に館長から依頼を受けた15人の画家がこの美術館のために、自由なテーマで描いた100号以上の大作ばかりを展示している。5メートルごとにガラスのパーテーションがあり、スイッチを押すと音声ガイドをお聴きいただけるようになっている。それぞれ作家が制作にあたっての想いを文章にし、それをナレーターが読んでいる。現役作家のコメントをお聴きいただけるのもホキ美術館の醍醐味といえよう。

また、1階にはイタリアンレストラン「はなう」とミュージアムショップを、地下1階にはカフェを併設している。「はなう」は東京・西麻布の有名店「アルポルト」の片岡護シェフがプロデュースしており、地元の旬の素材をふんだんに使った本格的なイタリアンを提供している。レストラン内にも写実絵画がかけられ、美術鑑賞の余韻そのままに美しい料理をお楽しみいただく、これもホキ美術館が目指しているものだ。

ホキ美術館の開館以来の取り組み

2010年に開館したホキ美術館が最初に力をいれたのは、建物、コレクション、そして展示はもとより、人々に認知していただくための広報活動である。まず開館半年前に、有楽町の外国人記者クラブで代表作家をまじえて、100名ほどのマスコミ関係者の前で記者発表を行った。報道資料の配布とともに、ホキ美術館とマスコミをつなぐ「ホキニュース」の発行も行った。開館直前には、交通広告をはじめ、主要新聞での全面広告をうち、かなりの認知を集めるに至った。また開館前日にはプレスのための内覧会とレストランの試食会を行い、東京からバスでご案内した。また、同時に充実したホームページを立ち上げ、最新情報を更新している。こうした広報活動により主要テレビ、新聞、雑誌の取材が相次ぎ、開館と同時に多くのお客様にお越しいただくことになった。3月の大震災により、しばらく来館者数は低迷したが、ゴールデンウィークには1日2,000人を超す日もあり、10月現在で来場者数は13万人を超えた。

ホキ美術館／概要

- 所在地 / 千葉県千葉市緑区あすみが丘東3-15
- T E L / 043-205-1500(代表)
- 開館時間 / AM10:00~PM5:00(水・金・土はPM6:00まで)
- 休 館 日 / 火曜日(火曜日が祝日の場合開館し、翌日休館)
11/14~18、12/30~1/1、5/21~25、8月下旬
- U R L / http://www.hoki-museum.jp



このほかのホキ美術館の取り組みとしては、まず特徴的なものの1つ目が、月に1度行っている画家によるギャラリートークだ。作家の生の声が聞けるということで好評を博している。二番目に建築家による建物探検セミナーで、これは美術館の外や中を丁寧に解説し、建築家のさまざまな工夫や意図を知っていただくもので、やはり人気が高い。ホキ美術館の建物は、2009年にスペインの建築祭の設計部門でベスト5に入賞しており、建築界でも大きな注目を集めている。3つ目には、東京からバスで美術館までご案内し、作品解説を行い、レストランで特別メニューをご堪能いただき、東京までまたバスでお送りするというツアーや、作家とふれあう機会も創出している。4つめには、ミュージアムグッズの充実があげられる。開館以来、ミュージアムグッズは好評で、展示作品のすべてをポストカードにしているほか、作家の描き下ろしによるマグカップや皿、千葉県産のピーナツバターなど、こまめに変わるグッズを楽しむに来館する方も多い。5つめには、ホキ美術館年間パスポートなどの発行とともに、美術館発信のツイッターもを行い、美術

からの情報発信と、来館者との交流を深めている。

今後の展望

今後の展望として、館長が第一に考えているのは何よりも「よい作品を収集し、展示すること」。来館者のために、よい作品を、魅力的に展示していくことである。半年ごとに展開される企画展として、現在考えているものは、「ホキ美術館傑作展」。これは、ミュージアムショップで販売しているポストカードにみる人気なども考慮しながら選ばれた作品60点が並ぶこととなる。また、数人の人気作家の作品のみで構成する三人展なども検討中である。

これまで写実絵画は、画廊や、公募展などの会場でしか一般の人々が鑑賞できる機会はなかった。しかし、このホキ美術館ができたことにより、一気に注目が集まり、全国各地から多くの方が写実をご覧にいらっしゃる。それだけではなく、作家から美術館へ絵を展示してほしいという依頼も後をたたない。作家同士も、美術館に一堂に展示されることで触れられ、それまで以上に切磋琢磨し、より技術を磨いてきているといえる。ホキ美術館は、所蔵作家との交流を行いながら、また、新人作家の発掘を行いながら、写実絵画の発展に寄与していきたいと考えている。



常設展示ギャラリー



常設展示ギャラリー



ホキ ミュージアムショップ



イタリアンレストラン「はなう」

ことばで遊び、学べるミュージアム

株式会社増進会出版社 大岡信ことば館



話し手
岩本 圭司
(株式会社増進会出版社 大岡信ことば館 館長)

聞き手
木本 拓郎
(金剛株式会社企画チーム チームリーダー)

[木本] 静岡・三島駅前に、大岡信ことば館が開館しました。はじめに、経緯についてお話を伺います。

[岩本] 大岡信ことば館は、全国に通信教育事業を展開している株式会社Z会の持ち株会社である株式会社増進会出版社の一事業部門として位置づけられています。

三島市出身である詩人・大岡信さんと弊社とのつながりは、増進会出版社創立60周年記念「若山牧水全集」(1992年)の監修をお願いしたところから始まりました。それから正岡子規選集(2001年)の編集をお願いしたり、詩や評論をZ会の学習教材に使わせていただいたりとずっと良い関係が続いてきています。

大岡信さんは詩人でありながら多くの美術家や様々な分野の方々との交流があり、作家ご本人から作品を寄贈されるなどして、長い年月の間に、四百数十点にもものぼる美術作品が氏の下に集まることとなりました。そしてこの度、弊社がJR三島駅北口にZ会文教町ビルを建設するに当たり、建物内にそれら美術コレクションも展示できるような空間を作ろうということになったわけです。

私はもともと造形家で、この文教町ビルの建設に当たっては設計の段階からアドバイザーとして関わっていたんですね。そして大岡信ことば館設立に向けて、流れの中で

どうか、その準備に関わっていくことになった訳です。具体的には設立準備委員会を組織し、文学関係や美術関係の先生方にも参画いただき、およそ2年ほど運営協議を重ねました。そんな中から生まれた基本構想が、ここを単に大岡信さんの美術コレクションを展示する場にするのではなく、大岡さんは「ことば」をとても愛してきた人なのだから、ぜひ「ことばで遊び、学べるミュージアム」を目指そうということになりました。そしてその後、具体的な展示方法や建築設備、運営計画などを詰めていきました。

[木本] 「ことばで遊び、学べるミュージアム」の具現化はいかがでしたでしょうか。

[岩本] 当館のもう一つの大きなコンセプトが、「文学館でもなく、美術館でもない、新しい形態のミュージアムを目指す」ということです。一般的に言って文学館や美術館は作家の作品あるいは資料を「静的」に展示することが、展示におけるその主な内容になるのだと思いますが、当館では各企画展ごと「ことば」に向き合い「ことばと遊ぶ空間作り」をしていくことが、とても重要な内容になっています。そんな風に「ことばを真剣に考えてみることは結構大変なことなのですが、実は案外楽しいことでもあるんですね。私もスタッフも多くのことばに向き合い掘り下げながら、毎回の企画を練り上げています。来館者の方々にも私たちのそんな熱意が伝わり、そこに「感性の連鎖」が創出できれば本当にうれしく思います。展示室には座布団も用意し

てあって、来館された方が展示室の中で床に座ることもできますので、その人その人の時間の中で、ゆったりと「ことば」と向き合っていただけたらと思います。

企画展示はおおよそ4ヶ月ごとに切り替えているのですが、展示ごとの「ことば」に関わる造形物の制作は、私を中心として当館のスタッフがそのほとんどを行っています。そのことのできなような様々な形態の展示が可能になっているのだともいえます。

[木本] 展示以外にも色々活動されていますか。

[岩本] 展示以外にも出版やイベント・講演会などの活動があります。出版に関して言えば現在大岡信さんに関する詳細なデータベースを構築中で、それをもとにこの12月には「大

岡信全軌跡 年譜・書誌」(400頁+400頁程度)を出版予定です。そしてその後も「大岡信データベース」をもとに随時面白い出版をしていきたいと考えています。

イベントに関しては、伝統的な音楽と現代のことばをコラボレーションした「声の力・言葉の力」を何度か開催しました。非常に好評だったこともあり、今後も何らかの形で続けていきたいと考えています。また「ことばの広場」では小学生を対象に、読み聞かせをもとにしたイベントを開催していますが、こちらも多くの参加をいただいています。

[木本] 最後に、展望についてお話を伺います。

[岩本] 現在、来館していただいた方にはアンケートをお願いしていて、展示空間について高い評価をいただ

いていることをうれしく感じています。また大岡信さんは中高年以上の方々には良く知られていて一定数の方にご来館いただいているのですが、最近徐々に若い来館者の方が増えているのがやはりうれしいですね。今後はもっともっと若い方に来館していただけるよう努力していきたいと考えています。

内容に関しても「ことば」をさらに掘り下げ、「ことば」ともって遊んで、来館者に驚きをもって接していただけるような、そんな空間を提供していきたいと考えています。

ここは三島という地方都市ですが、ぜひ「三島のことば館に行ってみなければ」と思っていたらいいような、そんな活動を今後も展開していかなければと強く感じているところです。また東京から新幹線で一時間なので、そんなに遠いところではないことも知

っていただきたいですね。

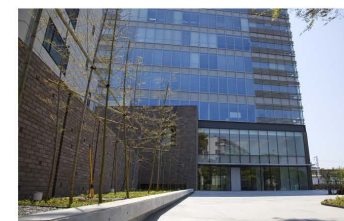
最後に、ことばは単に文学、文章の中にだけあるのではなく、美術や、音楽や、舞踊のような身体表現も、同じことばなんですね。私たちの周りにはことばが溢れていると思います。そんなことばをもっともっと広い意味

で捉え直していくことで、私たちの視野はずっと広がると思いますし、何といたってそれ自身が楽しいことですよ。

[木本] 本日は貴重なお時間を頂きまして、ありがとうございました。

株式会社増進会出版社 大岡信ことば館 / 概要

- 所在地 / 静岡県三島市文教町1-9-11 Z会文教町ビル1・2F
- TEL / 055-976-9160
- 開館時間 / 10時00分~17時00分
- 入館料 / 入館料は展覧会によって異なります。
- 休館日 / 水曜日(祝日にあたる場合は開館、翌日木曜日休館) 年末年始、展示入替期間、メンテナンス期間
- URL / <http://www.zkai.co.jp/kotobakan/index.html>



展示室

ショップ

企画展様子

資料・映像コーナー



企画展様子

文化財IPM コーディネータの育成

博物館・図書館のIPMは、これまでの薬剤を用いた駆除のように、殺虫・殺菌剤の専門家だけで実施するのではない。学芸員、司書、施設・設備に係わる職員や作業員、それらの業務を支援するボランティア、生物被害防除業務に携わる企業の技術者など、多くの人がそれぞれの立場でIPMの目的に沿って仕事をすることによって、より良い保存環境が作られる。そのためには、資料に加害する虫やカビの種類・生態を知り、資料の保存環境を把握して被害が生じないよう維持し、もし被害が生じた時には早期発見、早期処置するための知識と技能が必要とされる。さらに多くの人が係わるのでIPMを実践する組織についての知識も欠かせない。

文献

- ※1 三浦定俊・佐野千絵・木川りか「文化財保存環境学」(朝倉書店、2004)
- ※2 吉川也志保「図書館における紙資料の実物保存」カレントアウェアネス、no.298、pp.21-26(2008)
- ※3 レイチェル・カーソン(青樹繁一訳)「沈黙の春」(新潮文庫、1974)pp.142-156

そのような知識と技能を持った人を育てるために、私の文化財虫害研究所では今年度「文化財IPMコーディネータ」の資格を創設した。この「文化財IPMコーディネータ」は上にあげたIPMに係わる分野についてすべての専門家であることを目指すものではなく、それらの概要と文化財IPM全体について正しい理解を持ち、必要な時には適切に各分野の専門家と相談しながら、文化財IPMを実施あるいは指導・助言して推進できる人を目指している。資格付与のための第1回講習会と試験を、今年12月15,16日に九州国立博物館で予定しているのも、もし関心を持たれた方は、文化財虫害研究所のホームページ(<http://www.bunchuken.or.jp/>)をご覧ください。

図書館資料の生物被害と対策

博物館資料が美術工芸品から民俗資料、動植物標本まで幅広い分野にわたり、その材料も紙、木、布、その他の有機物・無機物など様々で、いろいろな種類の虫による被害を想定しなければならないのに対して、図書館における虫の被害は、シミ、ゴキブリ、シバンムシなどによる紙や装丁の食害、カツオブシムシによる羊皮紙などの食害、ゴキブリの糞による汚染などが代表的なものである。カビによる被害は本だけでなく書棚などにも見受けられる。ただし見つかる虫の種類が少ないと言っても、博物館に比べて図書館の生物被害対策が簡単というわけではない。施設内での虫発生の原因は、1. 出入り口や窓など開口部を通した外部からの侵入、2. 外部から持ち込まれる資料について侵入、3. 施設内のゴミからの発生のいずれかである。また外気が入るところは一般にカビの菌数が多い。さらに虫やカビが発生している場所は、湿度が高く空気がよどんでいたり、結露や雨漏り、漏水が起きていたりすることが多い。



書棚の目視点検



- ① シバンムシによる書籍の被害
- ② ゴキブリの卵鞘
- ③ ゴキブリによる書籍の被害
- ④ 本に発生したカビ

れはすでに病気になった材木だけを取り除き、ニレキクイムシが卵を産みつけた木までは伐り倒さなかったからである。また、伐り倒しても、春がくる前に焼いてしまわないと効果はない。…ニューヨークの昆虫学者は、経験からそれ(病気伝搬の原因)が何であるかを学んだのだ。ほかは無視して、ひたすらこの危険な原因を取り除こうと努力している内に、すばらしい成果が得られたばかりではなく、衛生環境改善に使った費用も、適当な幅におさめることができた。『沈黙の春』の中では、害虫を根絶しようとして強い殺虫剤を使うと、周辺の動植物や人間に悪影響を与えてしまうので、回り道のようにあっても害虫発生の原因を一つ一ついねいに取り除いていくことが、最も効果的で経済的な方法であるという、後のIPMにつながる著者の考えがくりかえし述べられている。農業分野におけるIPMは、1. 複数の防除法を合理的に統合して使用し、2. すべての農業害虫をゼロにしていることがわかりました。大学の構内には、死んだコマツグミ、死にそうなコマツグミの姿が見られたのだ。…1957年6月の末、いつもならば少なくとも370羽の雛が見られるはずなのに、たった1羽雛鳥がいただけだった。殺虫剤の散布によりこのような生態系の破壊が起きた一方、(ニューヨーク州では)かがやかな勝利がおさめられている。…なぜまたニューヨーク州では、このようにすばらしい成果があがったのだろうか。衛生環境を厳しく改善したり、病気にかかった材木があると、すぐにほかへ移したり、焼却してしま—こういう方法にもつばらたよってきたのである。もともと、はじめのうちははかばかしくなかった。だが、そ

あるIPM(総合的有害生物管理)も、preventive conservationとほぼ同じ頃に欧米を中心に始められた。IPMとpreventive conservationは直接に関連しているものではないが、背景にある考え方はよく似ている。どちらも全ての問題を一挙に解決する方法ではなく、科学的に最先端の手法を用いるものでもないが、地味で時間はかかっても「持続可能な」手法を用いるという点が共通している。IPMはもともと農業分野で、病害虫駆除のために殺虫剤に過度に依存していたことへの反省に立って生まれた。そのきっかけとなった本『沈黙の春』の中で、著者のレイチェル・カーソンはニレの木を枯らすオランダエルム病を伝搬するニレキクイムシの駆除について、次のように書いている^{※3}。“オランダエルム病防除の(殺虫剤の)スプレーは1954年(ミシガン州立)大学の構内からはじまった。…最初に小規模なスプレーがあった1954年は、べつに変わったこともなくすぎた。…でも、やがて何か狂っていることがわかりました。大学の構内には、死んだコマツグミ、死にそうなコマツグミの姿が見られたのだ。…1957年6月の末、いつもならば少なくとも370羽の雛が見られるはずなのに、たった1羽雛鳥がいただけだった。”殺虫剤の散布によりこのような生態系の破壊が起きた一方、(ニューヨーク州では)かがやかな勝利がおさめられている。…なぜまたニューヨーク州では、このようにすばらしい成果があがったのだろうか。衛生環境を厳しく改善したり、病気にかかった材木があると、すぐにほかへ移したり、焼却してしま—こういう方法にもつばらたよってきたのである。もともと、はじめのうちははかばかしくなかった。だが、そ

はじめに

30年ほど前から、博物館資料に対する保存の考え方は大きく変わってきた。すなわち博物館資料を展示・保存する際に重要な空調、照明、空気汚染、防災、防犯などの要素を、それまでは個別に考えてきたのに対して、1980年代頃からpreventive conservationと言う言葉でまとめるようになった^{※1}。これは単に個別の要素を、新しい言葉でひとくくりにしたと言うことではない。それまでconservation(保存)というと、資料に被害が生じた後に、修復を中心にして対策をとることをもっぱら指していたのを、資料に被害が生じないように環境を総合的に整えて被害を予防する方向へと、資料

保存の考え方が切り替わったことを示している。時期的には後になるが図書館資料の保存においても、90年代末に同じ方向へと変化した^{※2}。日本ではpreventive conservationは直訳して「予防保存」あるいは「予防的保存」と訳されることが多いが、その内容は資料を安全に保存するため、空調、照明、空気汚染、防災、防犯など保存環境を整えることなので、私は「保存環境づくり」と呼んだ方が言葉の意味をよく表していると考えている。

博物館・図書館におけるIPM

博物館資料の生物被害対策で

IPMから見た図書資料の保存

公益財団法人 文化財虫害研究所